

歴戦女戦士の

乙女スイッチ





■オリーヴァ

オーガ族の女戦士。

厳しい男性社会のオーガ族の中あって最強の女性部隊を束ねた歴戦の猛者。

その強さは男性でも太刀打ち出来ずドラゴンを一人で倒した等の逸話もある。

「女の自分よりも弱いくせに男という理由だけで何故自分が下に扱われなければいけないのか」

と圧倒的男性有利な部族の風習に納得できず

女性としては高い地位を獲得しているにも関わらず部族から離れ人間族の駐屯地で指南役を務める事に。

人間族の風習の中で男女の格差も無く

穏やかな日々を過ごしていたオリーヴァだったが

普段自分の身の回りの世話を丁寧にしてくれて

悪からず思っているトッドにひよんな事で可愛いと言われる。

それまで戦いの中で生き部族の男性から軽視されて来た

彼女は生まれて初めてそんな事を言われて

ひどく動揺してしまうのだった。

ここは国境沿いの駐屯地
人間族とオーガ族の国の
境界に位置している

よし!!
今日の訓練は
これにて終了!!!

ありがとう
ございました!!

オリーヴァさん
今日も稽古
お疲れ様でした
これで汗を

おっ..
すまないな!

この人はオリーヴァさん
オーガ族の戦士だ

オーガ族には優秀な
女性だけの部隊があつて
その部隊にはどんな精鋭でも
歯が立たないと有名だった

その部隊を率いていたのが
このオリーヴァさんなのだ
なんとドラゴンを一人で
倒したなんて噂もある

俺はオリヴァさんの身の回りの世話役を任されているトッド

オリヴァさんに憧れて自分からこの役を買って出たんだ

俺は辺境にある山と森に囲まれた村の出身なんだけどその村では時々魔物が…時にはグリフィンなんかも現れて家畜に被害が出たりしていた

だから俺も自警団に入ってたんだけどちゃんとした戦いの技術を身に付けようと国の兵役に志願した

でも俺には戦いの才能が全然無いみたいでこの駐屯地に派遣されても結局やらされたのは雑用ばかり

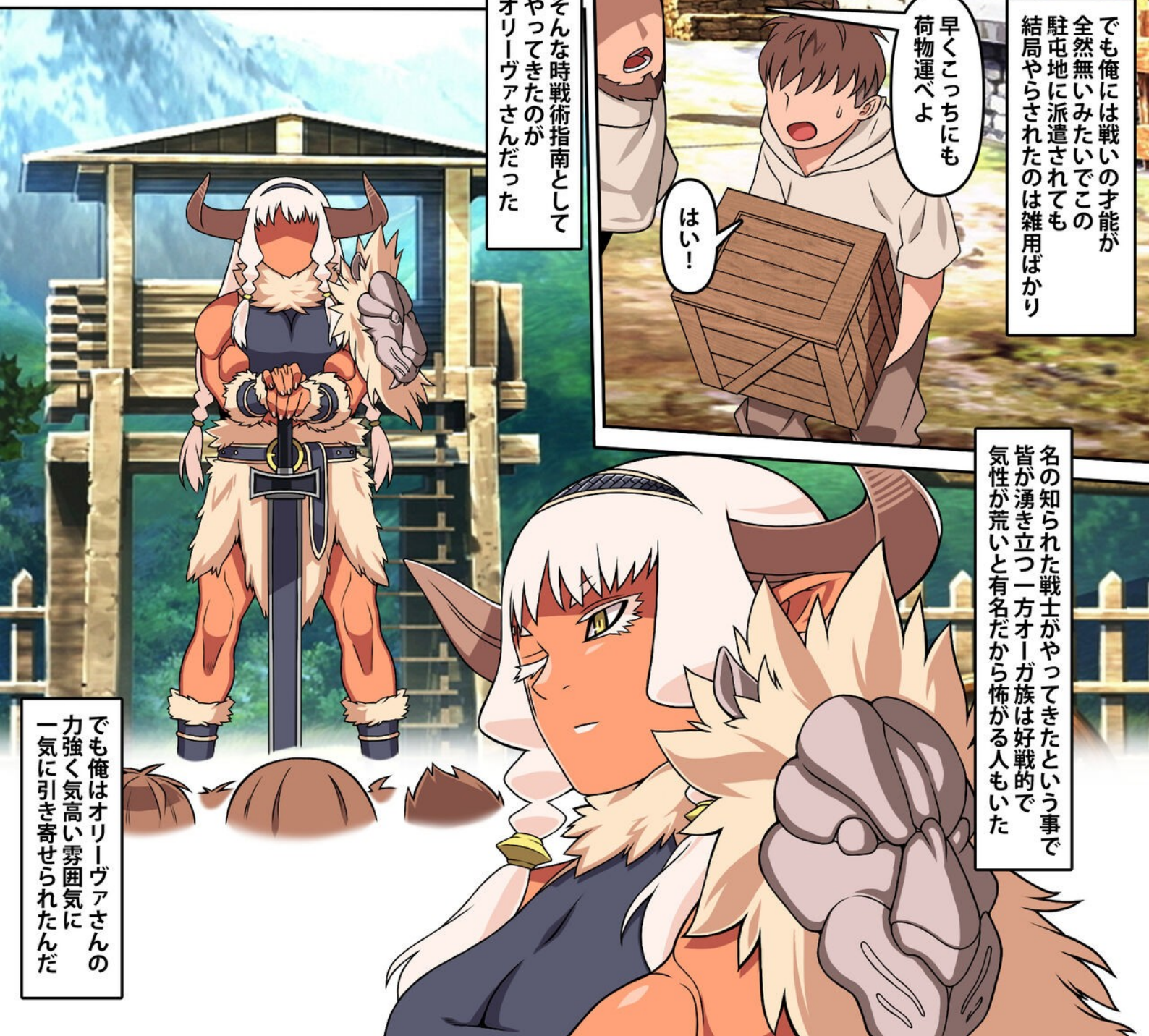
早くこっちにも荷物運べよ

はい!

そんな時戦術指南としてやってきたのがオリヴァさんだった

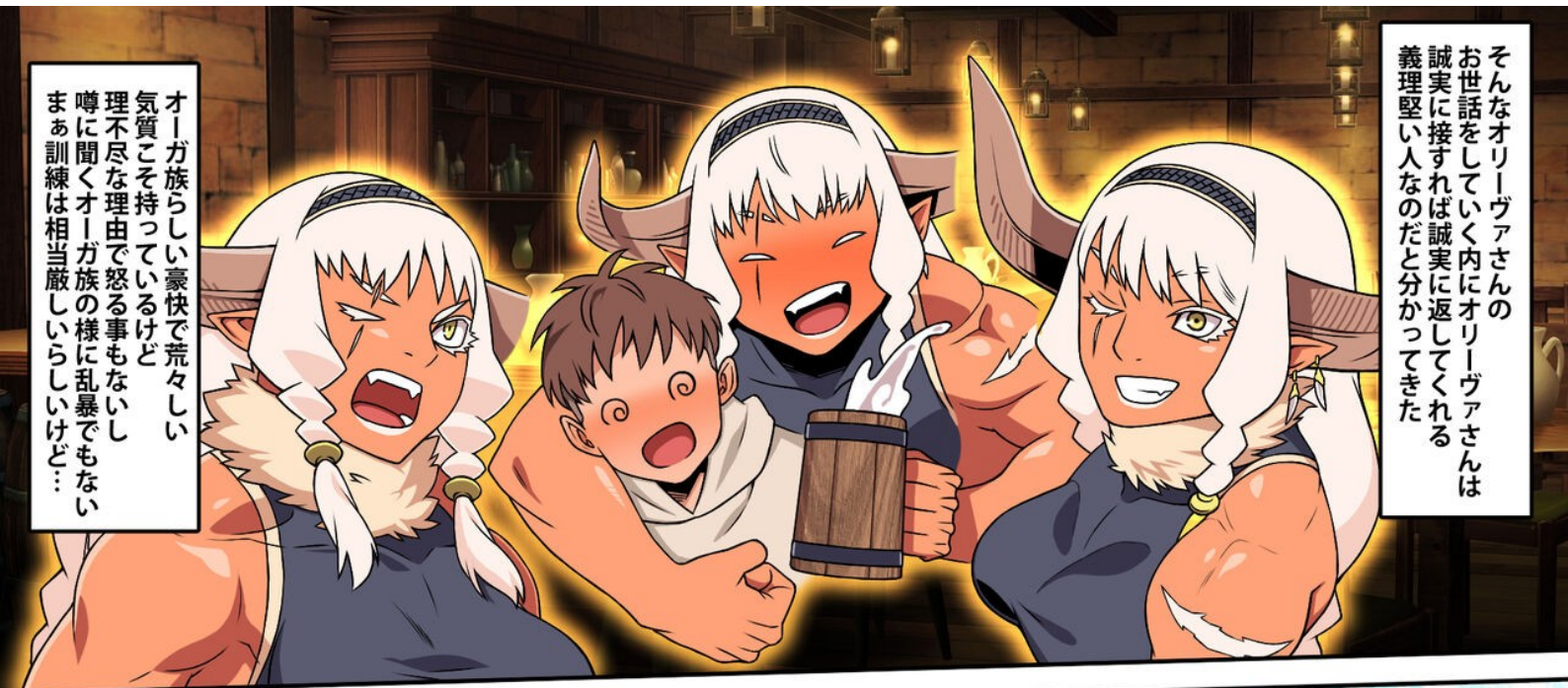
名の知られた戦士がやってきたという事で皆が湧き立つ一方オーガ族は好戦的で気性が荒いと有名だから怖がる人もいた

でも俺はオリヴァさんの力強く気高い雰囲気一気に引き寄せられたんだ



そんなオリヴァさんのお世話をしていく内にオリヴァさんは誠実に接すれば誠実に返してくれる。義理堅い人なのだと分かってきた

オーガ族らしい豪快で荒々しい気質こそ持っているけど、理不尽な理由で怒る事もないし、噂に聞くオーガ族の様に乱暴でもない。まあ訓練は相当厳しいらしいけど……



そしてたまに目にする。普段の力強さとは違った女性的な魅力にも俺はドキドキしこの人をとてても尊敬していた

暑い……



前から気になってたんですけどオリヴァさんはどうしてここに指南役に来ようと思ったんですか？

ん？



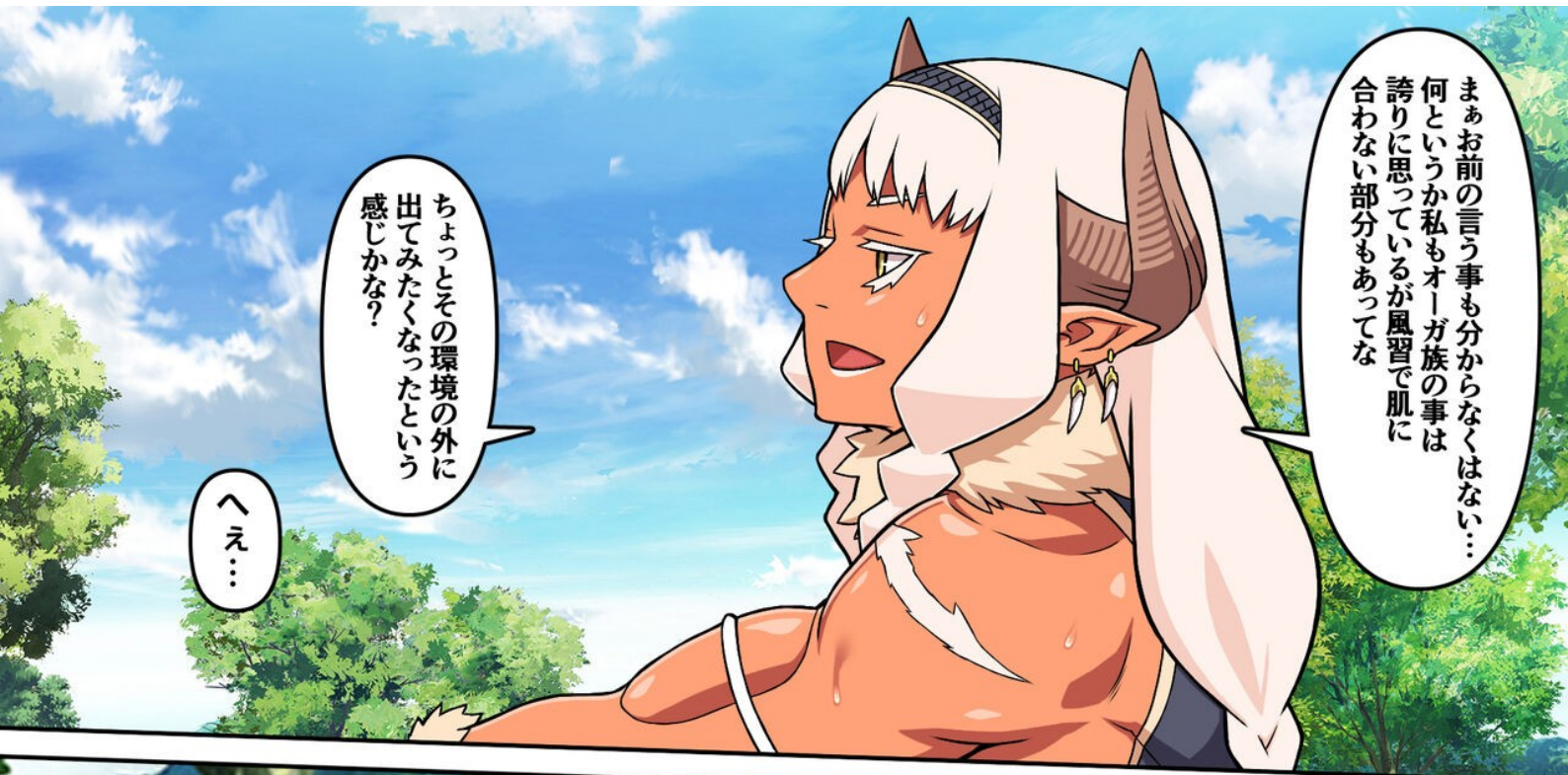
いえ……俺だってお会いする前からオリヴァさんの名前を耳にする事があったんですけど

そんなに有名なオリヴァさんなら本国ならもっと何て言うか……高い地位と云うか良い暮らしが出来るはずじゃないかって思って

ああ……そういう事か



!?!
ドキッ



まあお前の言う事も分からなくはない…
何というか私もオーガ族の事は
誇りに思っているが風習で肌に
合わない部分もあってな

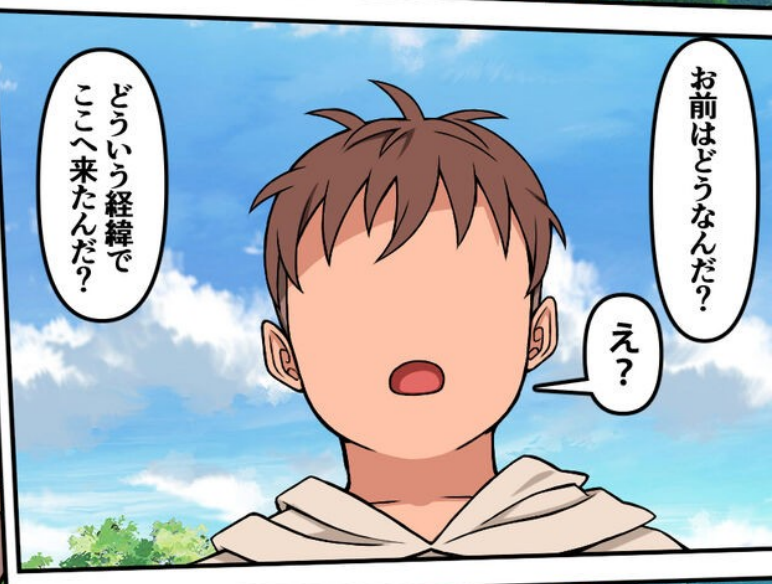
ちょっとその環境の外に
出てみたくなったという
感じかな？

へえ…



……とまあ
カクカクシカジカで
兵役に参加したものの
戦いに向いてないらしくて

はははッ
だから雑用係に
されたと



お前はどんなんだ？

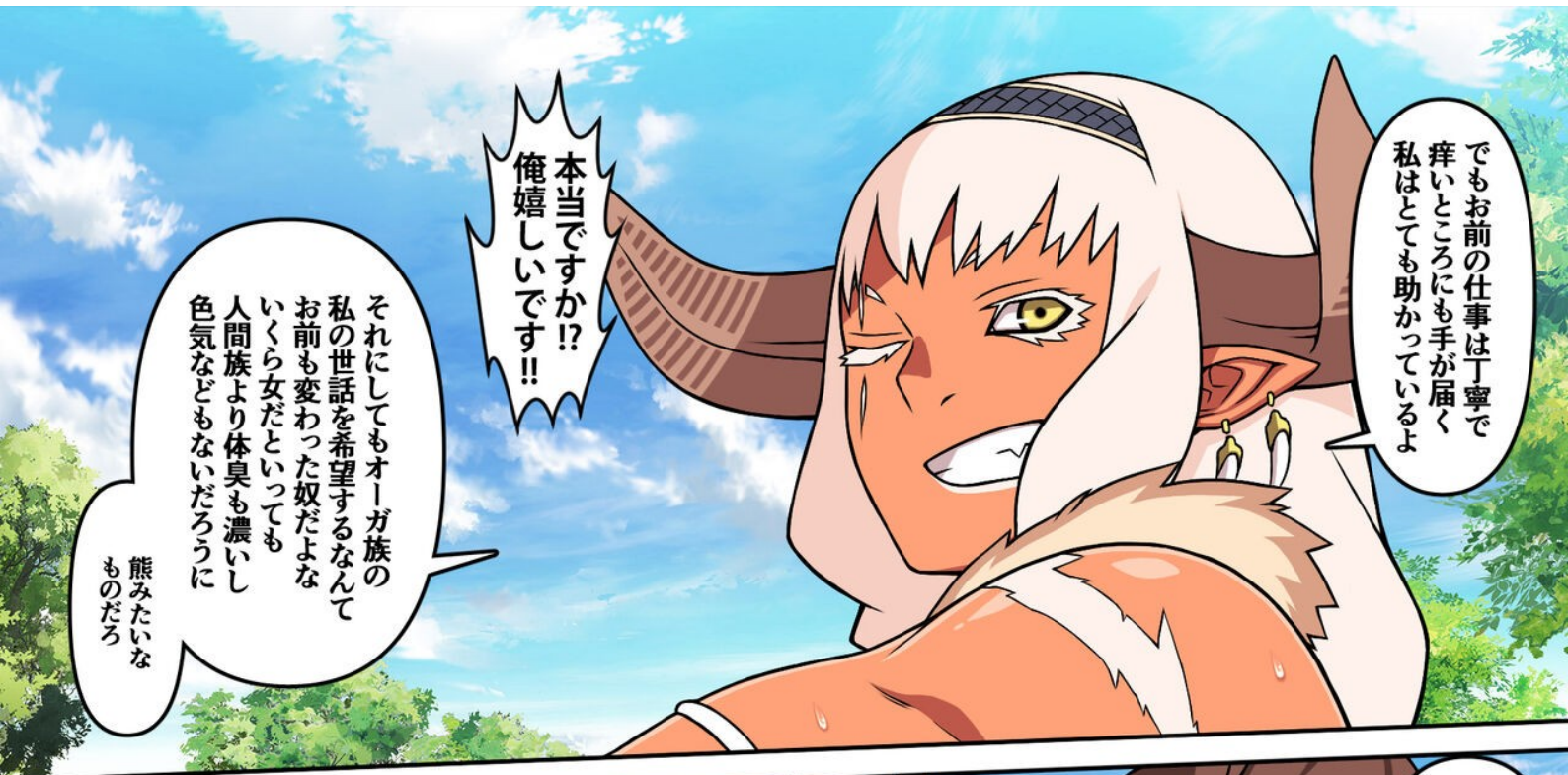
え？

どういう経緯で
ここへ来たんだ？



え〜…ッとですね…俺結構僻地の方の
山と森だらけの田舎村の出身なんですけど
たまにそこってグリフィンが出たりして

それで俺も自警団に
入ったりしてたんですよ
それで――

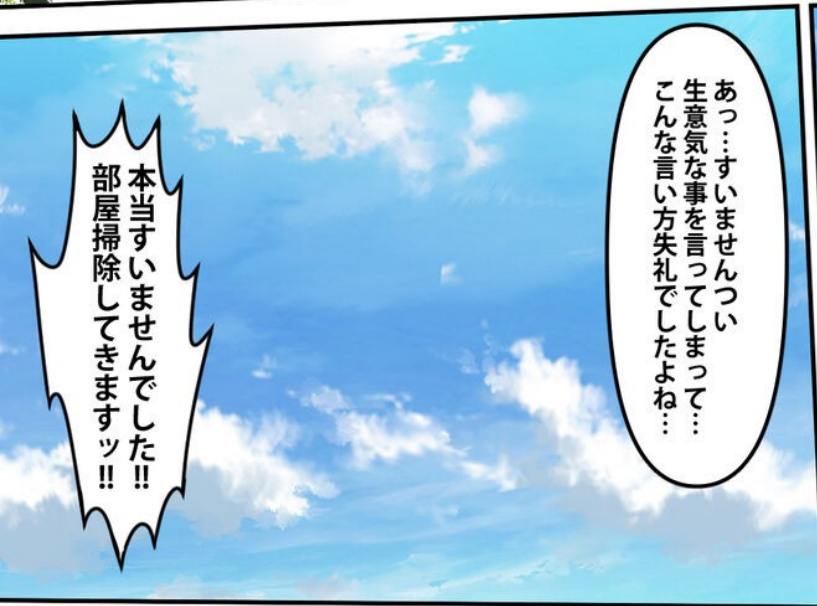


でもお前の仕事は丁寧で
痒いところにも手が届く
私はとても助かっているよ

本当ですか!!
俺嬉しいです!!

それにしてもオーガ族の
私の世話を希望するなんて
お前も変わった奴だよな
いくら女だといつても
人間族より体臭も濃しい
色気などもないだろうに

熊みたいな
ものだろ



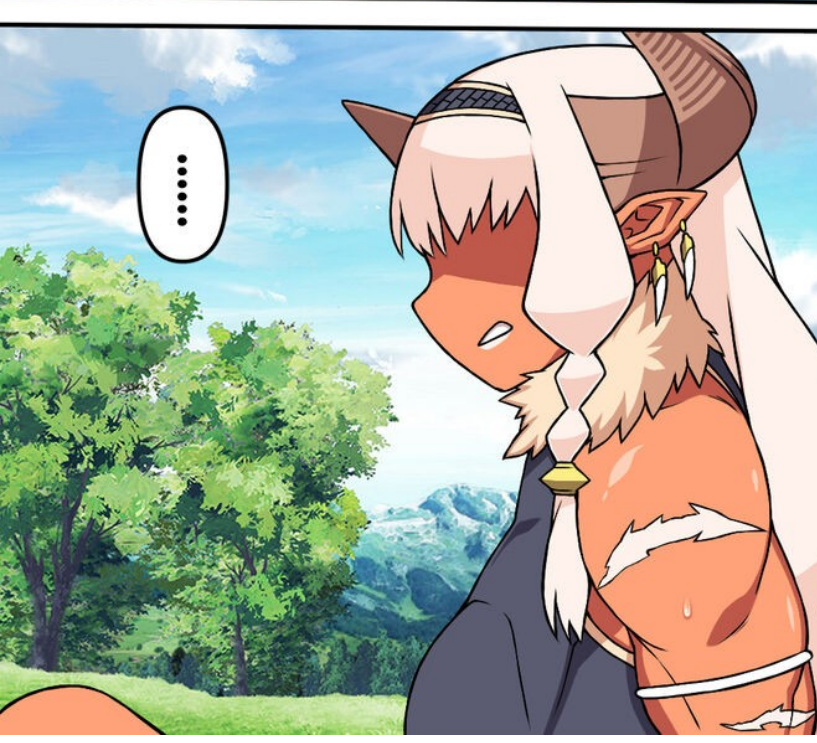
あつ...すいませんつい
生意気な事を言ってしまったて...
こんな言い方失礼でしたよね...

本当すいませんでした!!
部屋掃除してきますッ!!



いや!そんな事
ないですよ!!
俺オリーヴァさんを
尊敬してますし

それにふとした時に
とても綺麗でその...
可愛いですし...!!



...



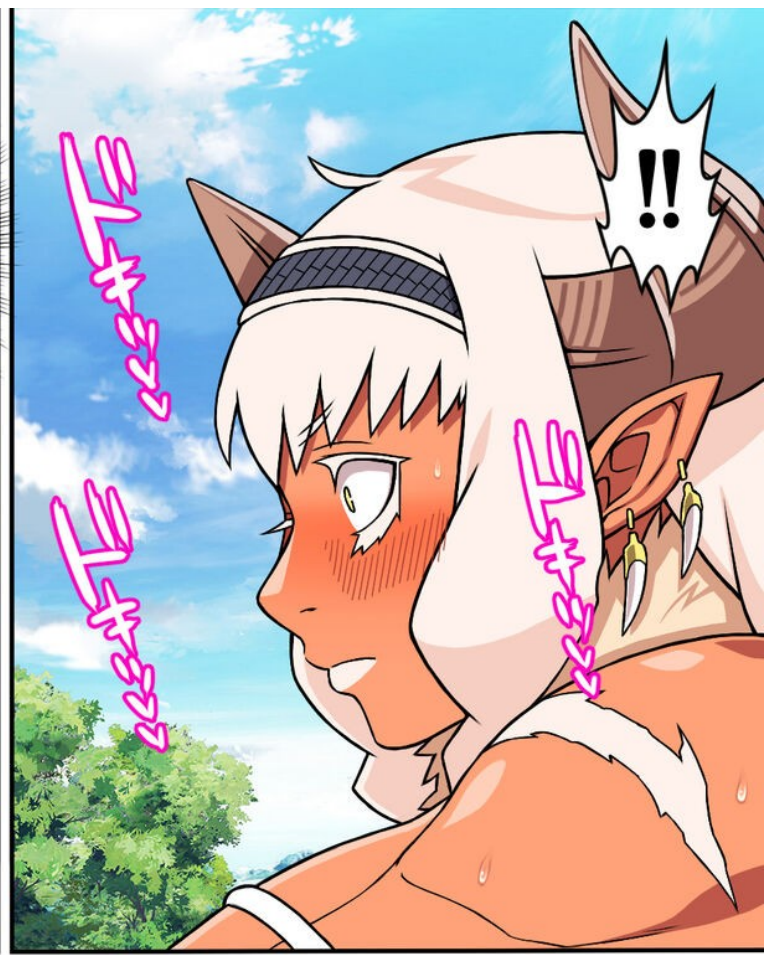
!?
何?可愛い?
私が可愛いだと?

ヒキッ



「可愛い」だと…？私が…？
そんな事生まれて初めて言われたな…
厳しい男性社会の我が部族…
男を立てるのが女の務めであり栄光…

今まで「お前は俺に相応しいや
俺の隣に置いてやる」なんかは
言われた事があったが
まるで装飾品になれと
言わんばかりだった…



何だ…この胸の奥が
ギューッと握りつぶされそうな
感覚…動悸も激しくなって
息も少し苦しい…しかし…
嫌ではない…

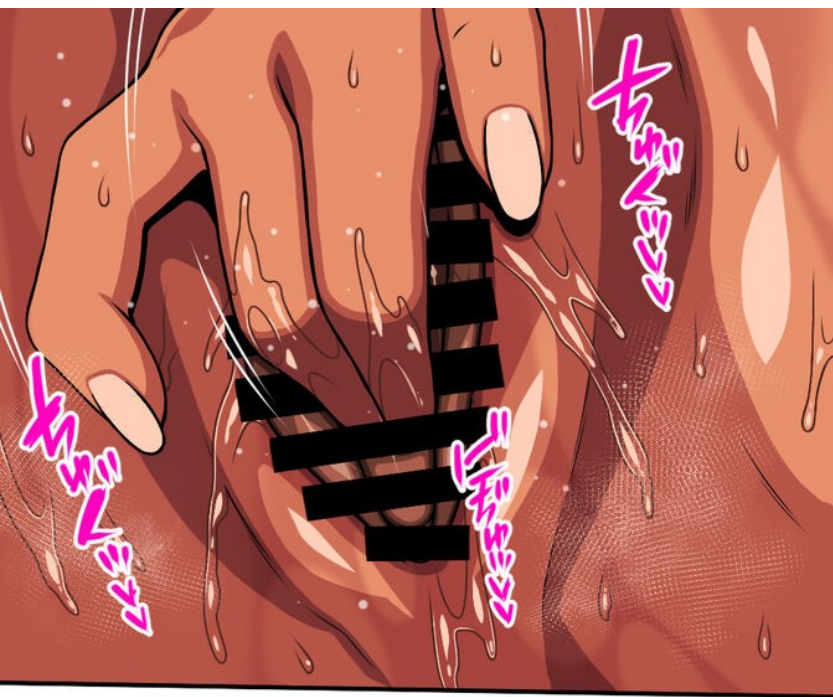
これは…喜び？
私は今可愛いと言われて
喜びを感じているのか？



ただ女の私よりも弱い男に
そんな事を言われるのが納得いかず
相手にもしてこなかったが…

そんな私が可愛い…
可愛い…か…

その夜――



ふうッ…ふうッ…
この高揚感ッ…戦いの時に
感じるものとも全然違うッ!!



むちちち…

あいつの言葉を何度も何度も
思い出して…
その度に気持ちが高ぶって…

自慰など普段は
しないのに…

それにただの自慰なのに
こんなに感じるなんてッ…
体が喜んでるのかッ

可愛いと…女性として
魅力的と言われた事にッ
んッ…イクッ…またイクッ
しまッ

もう三回目なのにッ…
またッ…こんなに感じて
イクッ…

可愛い

可愛い

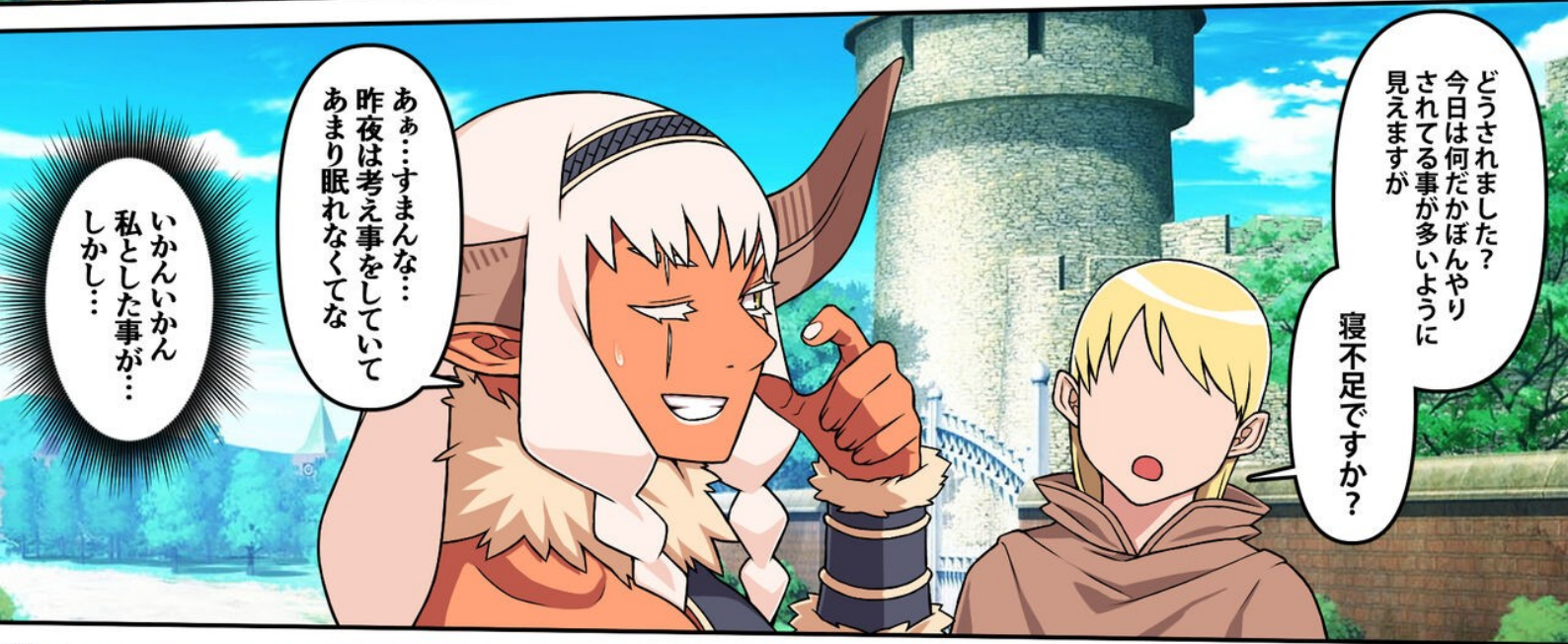
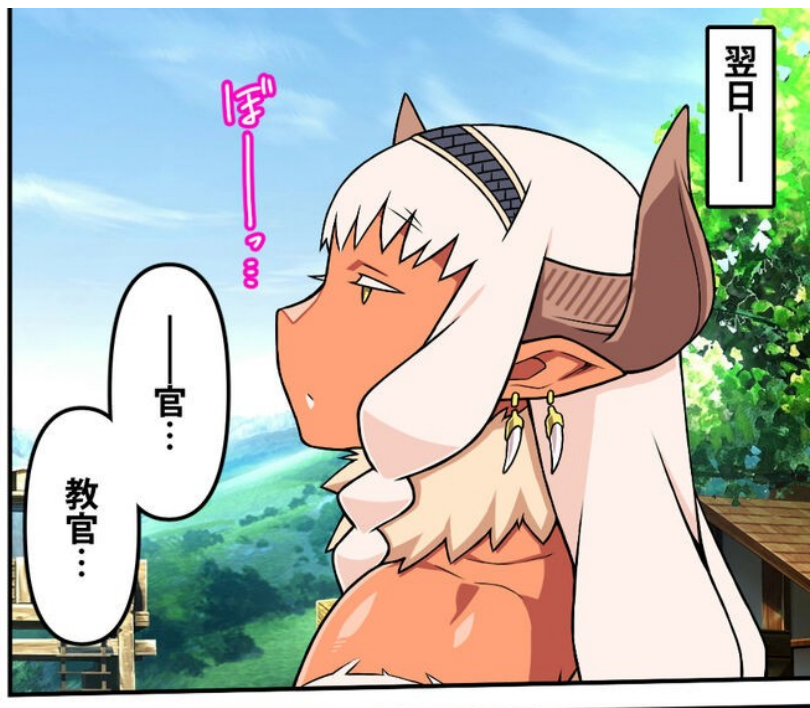
可愛い

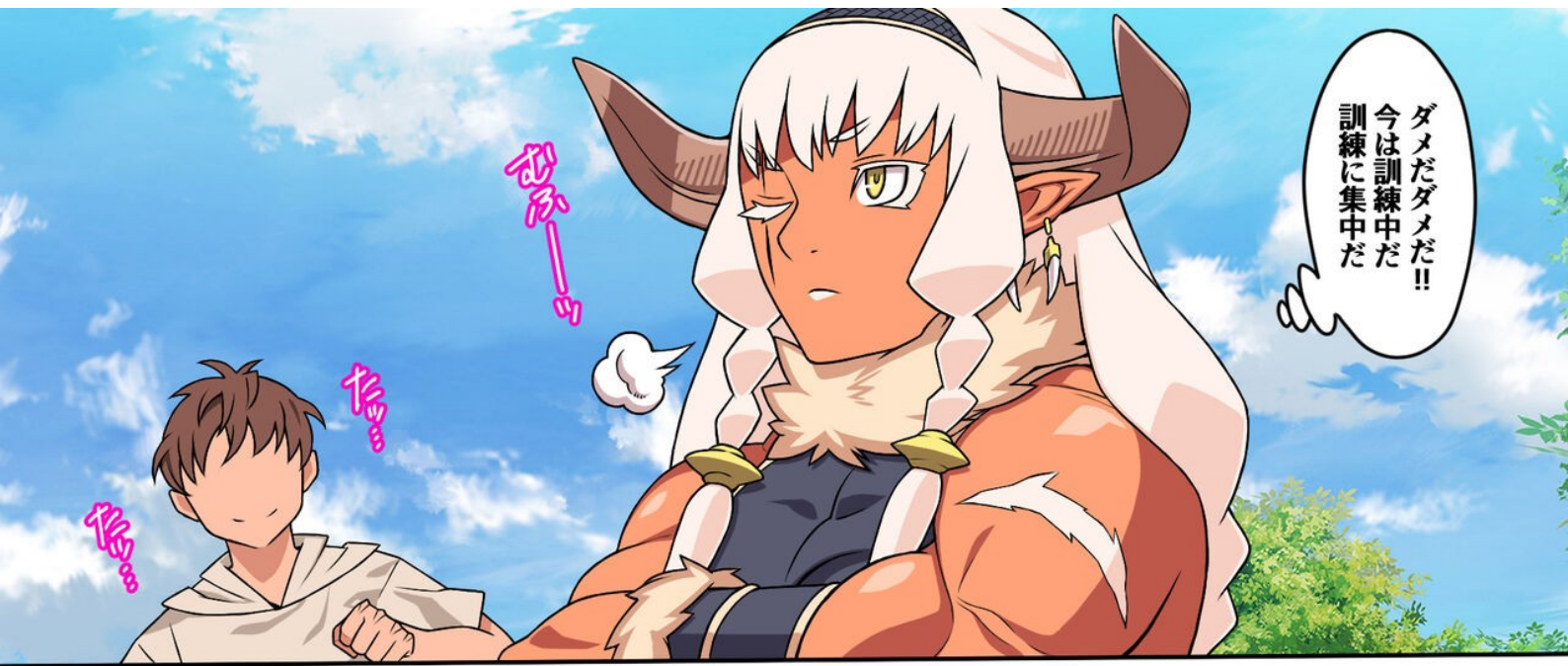
可愛い

あッ
♡

ぐんぐんぐんぐん
♡♡

[Redacted]



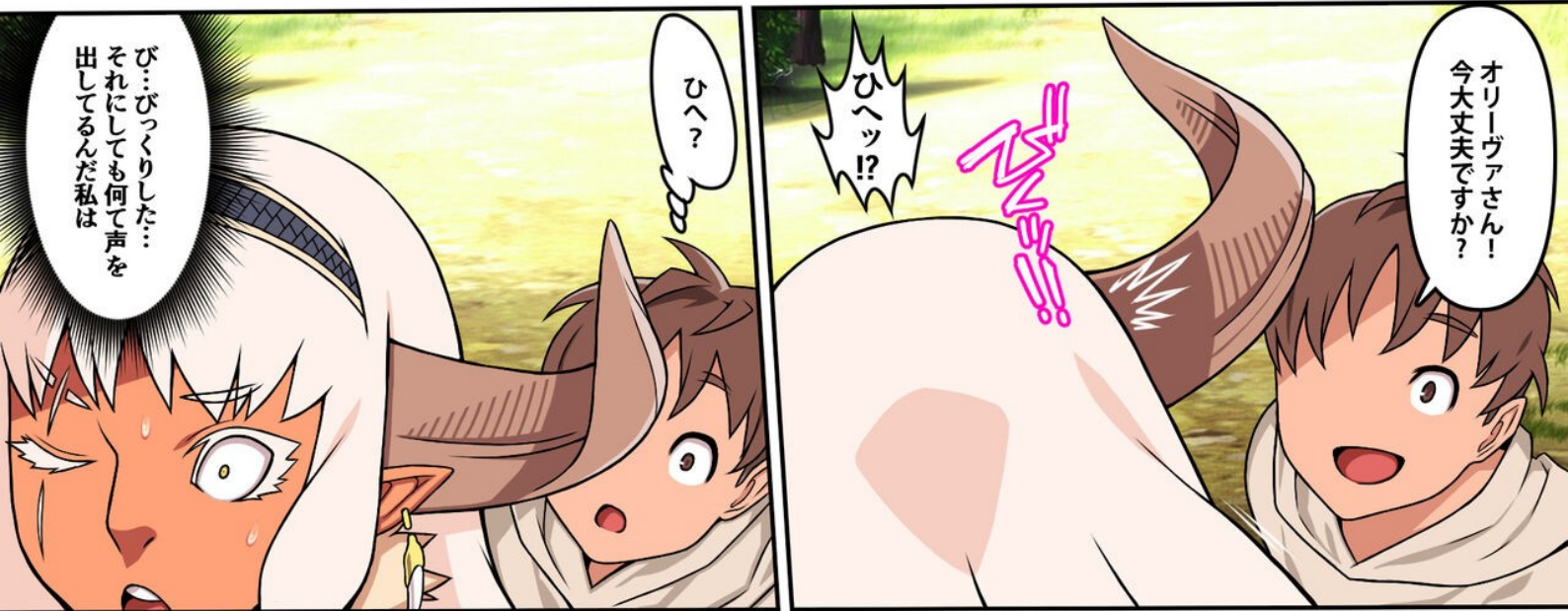


ダメだダメだ!!
今は訓練中だ
訓練に集中だ

ひん

たっ

たっ



オリーヴァさん!
今大丈夫ですか?

ひへっ!?

ズッ!!

ひん

びびびっくりした...
それにしても何て声を
出してるんだ私は



どうした?

今晚のご飯何が
良いかと思いついて
何かリクエスト
ありますか?

そうだ!大きくて
良いイノシンが
捕れたそうですよ



その日の深夜――



ヒキッ



はい？
どなたですか？

コソ
コソ

私だ…
ちよつと良いか？



え？オリヴァアさん？
どうしたんですか
こんな夜中に？
今開けますね



え…オリヴァアさん
どうしたんですかその格好…

ヒキッ

え…今鍵閉め…
オリヴァアさん？



ヒキッ
ヒキッ



わっ…!?

すまんツ!!
トツド!!



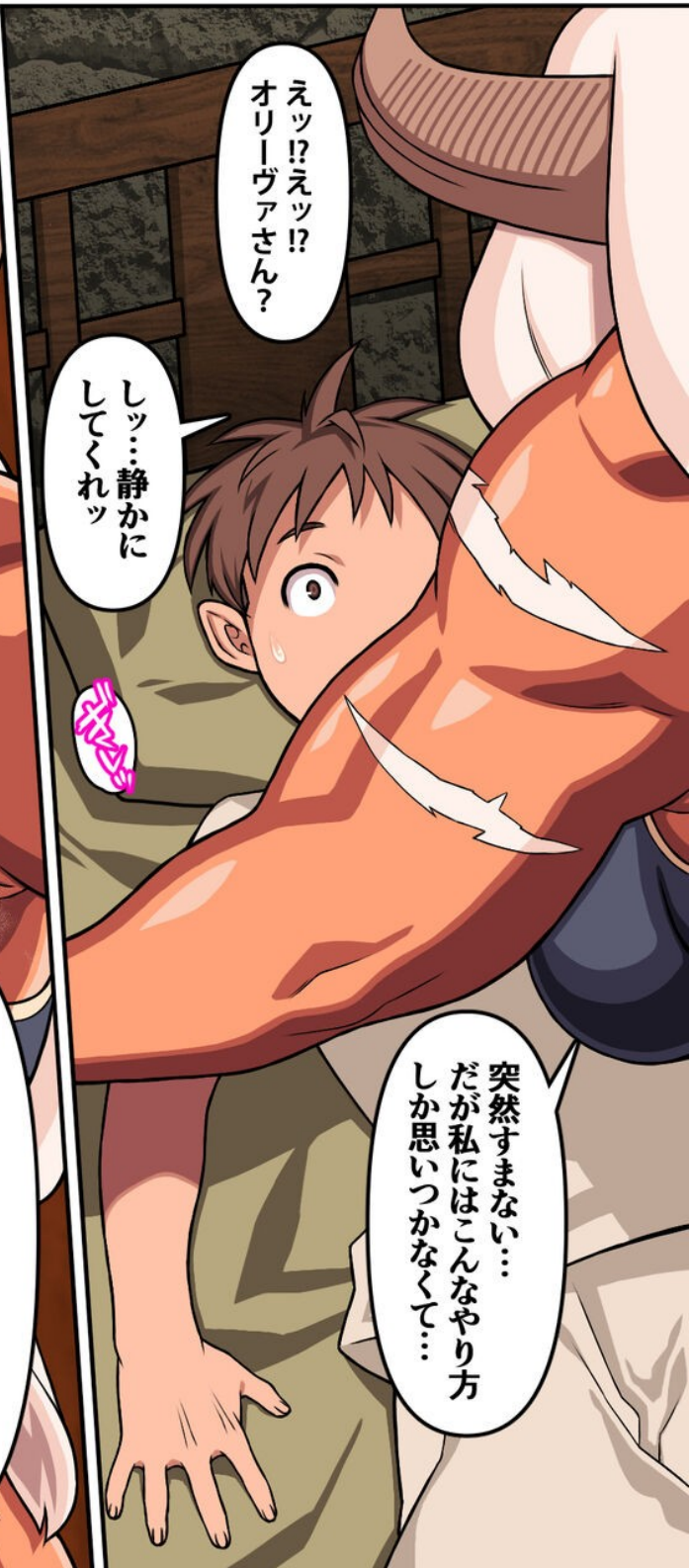
す…



お…俺がオリヴァアさんに
言った事…ですか?

お前に言われた事が
昨日からずっと頭に残って
眠れないんだ…

私の事綺麗で可愛いって言ったよな
私が可愛いって言う事は
お前は私に対して女性として
魅力を感じてるって事で良いんだよな?



えッ!? えッ!?
オリヴァアさん?

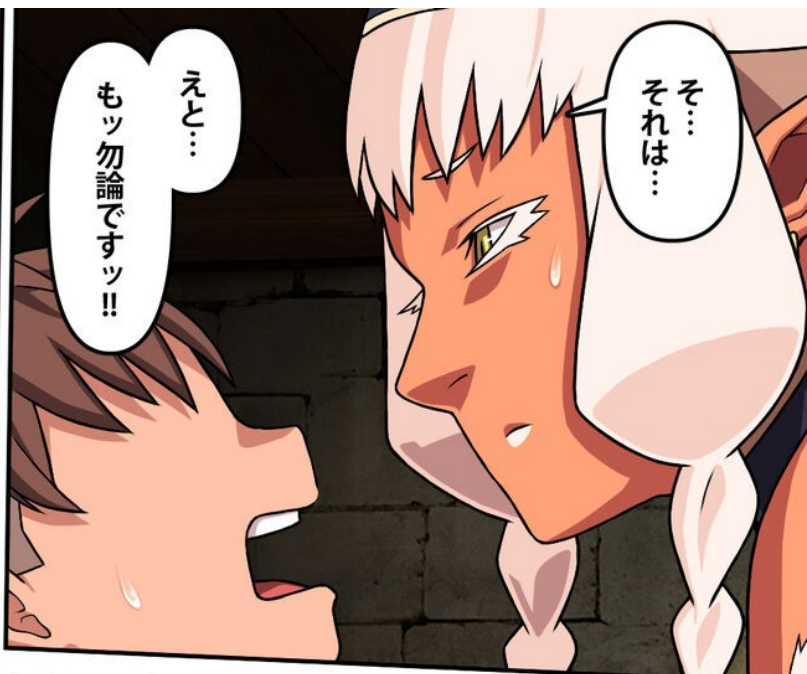
しッ…静かに
してくれッ

突然すまない…
だが私にはこんなやり方
しか思いつかなくて…



じゃッ…じゃあ私を
女性として…
抱けるか？

えッ!?



えと…
もッ勿論ですッ!!

そ…
それは…



でッ…でもッ…
俺なんかそんな
恐れ多い事…
流石に…

いゅあぁぁぁぁ

オリーヴァさん…いつもの
獣っぽい体臭じゃなくて
熟れた果実みたいな甘ったるい
濃い匂いがする…もしかしたらこれ
オীগ族の発情臭!!
まさか…オリーヴァさんが…
俺に!?

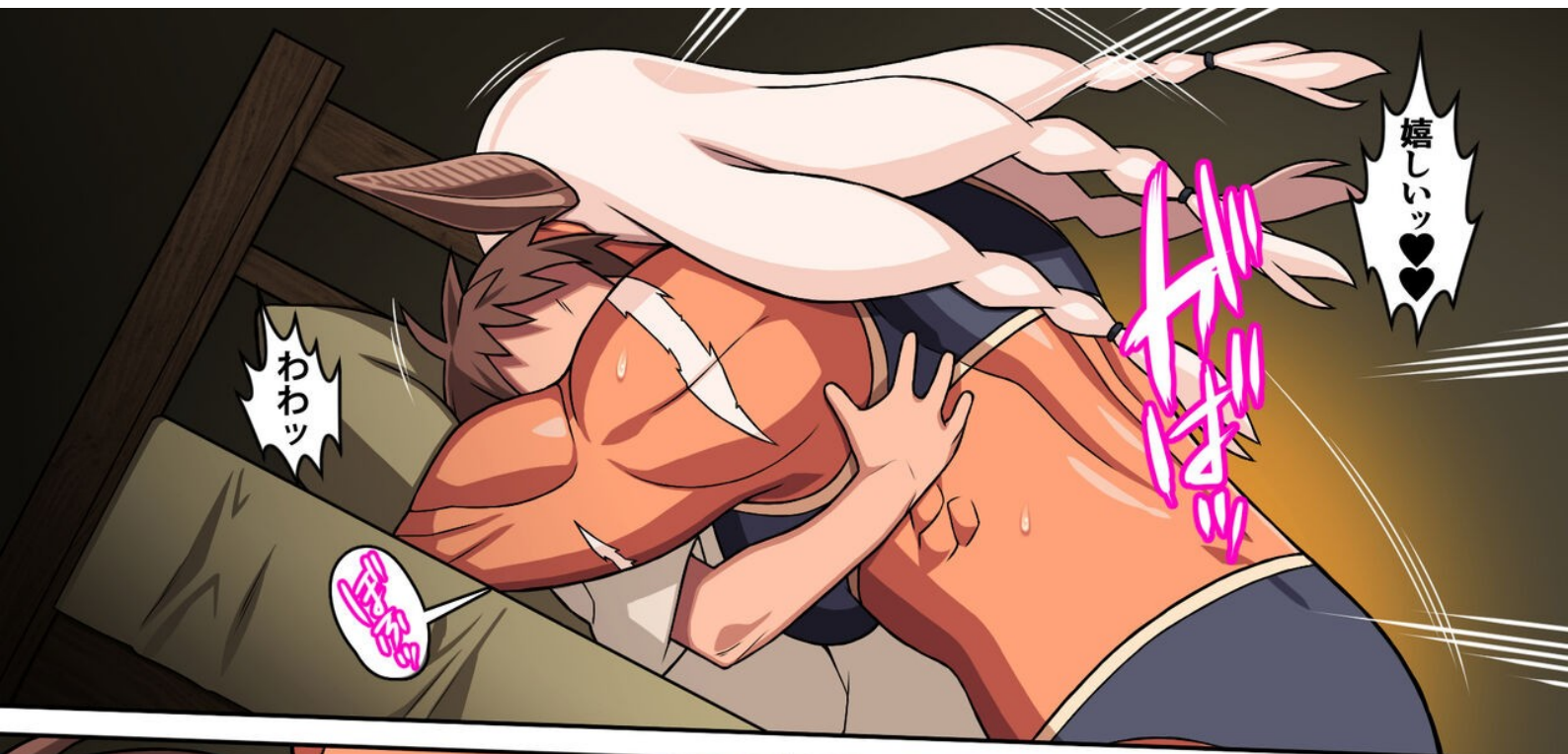


俺ずっと憧れててッ…

そッ…そんな事ないです!!
オリーヴァさんはめちゃくちゃ
魅力的な女性ですッ!!



嫌…か？





オーガ族のセックスは野性的でめっちゃくちゃ激しかった

オリヴァさんは激しく食べるように俺にキスをし太い舌をねじ込んできた…



野性的に全身をくまなく舐め回され…

これがお前の味…

凄く密度の高い肉圧…オリヴァさんの体臭…そして汗が俺を包みこんでいた…

匂い…♡

乳首ッ

はひッ

まわあああああ



最高ですッ!!

んんッ…ダメッ…
そこ…オীগ族は体臭が
強くてその…臭いからッ

むわあ…

れっ
はっ
はっ

そんな事無いですッ!!
俺オリーヴァさんの
匂い大好きですッ!!
凄く良い匂いですッ!!



私…魅力的か?
綺麗か?可愛いか?
はしたくないか?

オリーヴァさんッ
凄く魅力的ですッ
力強くて荒々しい所もあるのに
こんなに綺麗で可愛くて…

はっ
はっ

はっ
はっ



胸も吸ってくれッ
乳首噛んでッ

おニヤッ

はっ
はっ

はっ
はっ

もっと強くッ

噛んでッ

んんッ

はっ
はっ

はっ
はっ



好き?
私の匂い好き?

なら…
もっと嗅いで
もっと舐めてえッ

はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ

はっ
はっ



私ッ：
良い匂い？
私の匂い好き？

本当に臭くない？
好き？



んんんんんん♡♡♡



めちやくちや
良い匂いですッ!!
濃厚な甘ったるさに
汗の匂いが混じって

凄くチ○ポがムズムズ
しちゃうような
魅力的な匂いですッ
俺大好きですッ!!



妻く…
感じるッ♥♥

あッ♥♥♥♥
んッ♥♥♥♥
良いッ♥♥♥♥

お前のチ○ポッ♥♥

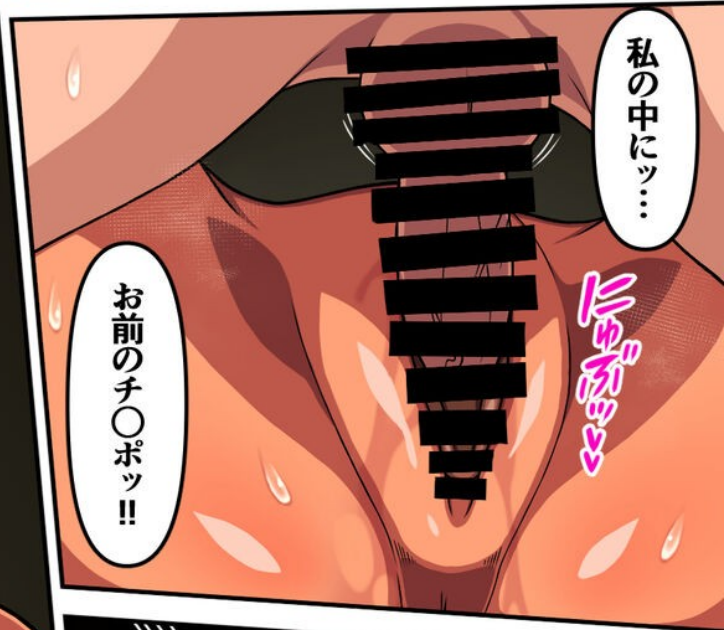
オリヴァさんッ

オリヴァさんッ



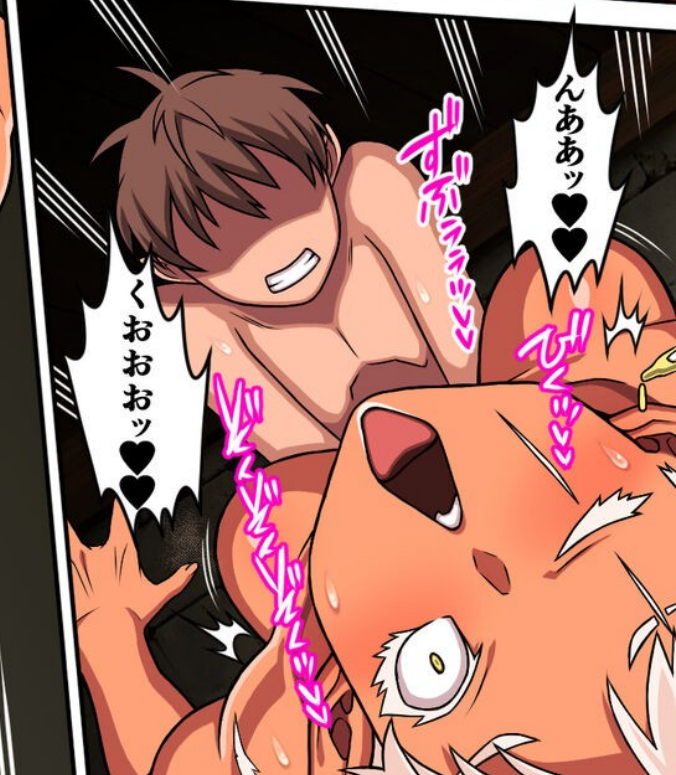
私…高ぶってしまって
もう我慢が出来ない…
トッド…中に入れてくれッ

オリヴァさんッ



私の中にッ…

お前のチ○ポッ!!



んああッ♥♥♥♥

くおおおッ♥♥♥♥

オリヴァさんッ

オリヴァさんの中…
ギユウギユウにキツくて…



あつたかくてヌルヌルで
凄く気持ち良いッ…

お前のチ○ポも凄く良いぞッ
もっ…私で感じてくれッ
私を…女として求めてくれッ



人間族の男が女にする様に
私に…もつと優しくッ…その…
甘えさせてくれッ

オツ…オリヴァさんッ!!



!?

ぐッ
♡



ぐんぐん…ツツ
♡

抱きしめられるの…
頭なでられるの気持ち良い…
凄く安心する…何故だ
こいつの方が体が小さいのに…

そうか…今私は好意を持った
男に女として優しく大切に
してもらっている事に
喜んでるんだ…

これ…
たまらないッ
♡♡

もっとギュッとして♡
頭なでてッ♡♡

こんなに遅しくて強くて…
それなのに乙女なオリヴァさん
最高に可愛いですッ!!
可愛すぎますッ!!

はぁッ…はぁッ…
んんッ…♡私ッ…♡
もうイッてしまいたいッ♡♡

んッ…あうッ…俺も
もうイキそうですッ
出ちやいますッ

!?
オッ…
オリヴァさん!?

待って…ダメッ…
本当に俺もう出ちやいますッ
出ちやいますからッ…

出してッ♡
中に出して欲しいッ…♡
お前の子種…私の中に…♡
中に出してッ♡♡

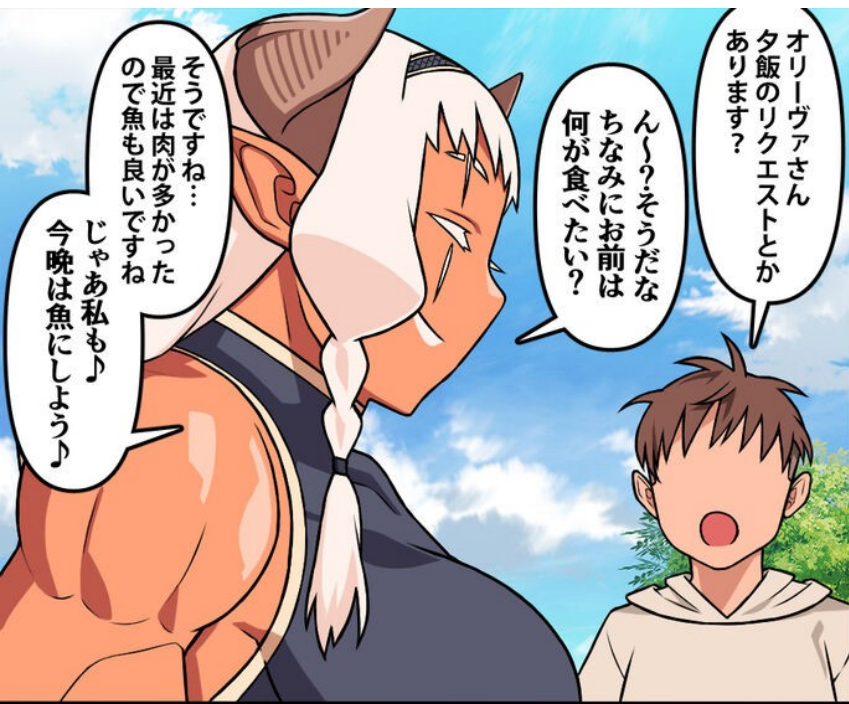
私に…お前の
精液を出して
くれッ♥♥

んんんッ…
オリーヴァさんッ…
あうッ…出ちゃうッ…

オリーヴァさんの体温…
匂い…湿度…濃密な肉感に
包まれながら俺はオリーヴァ
さんの中にとめどなく射精した…

事が終わっても
オリーヴァさんは
俺を抱きしめ続けた…
そしてそのまま…
オリーヴァさんは大きな
猫みたいになっていた…





昨夜あんな事があって俺はオリヴァさんと顔を合わせるのがちょっと恥ずかしかったけれど

オリヴァさんはとても機嫌が良かった

オリヴァさん夕飯のリクエストがありますか？

ん？そうだなちなみにお前は何か食べたい？

そうですね…最近肉が多かったので魚も良いですね
じゃあ私も、今晚は魚にしよう



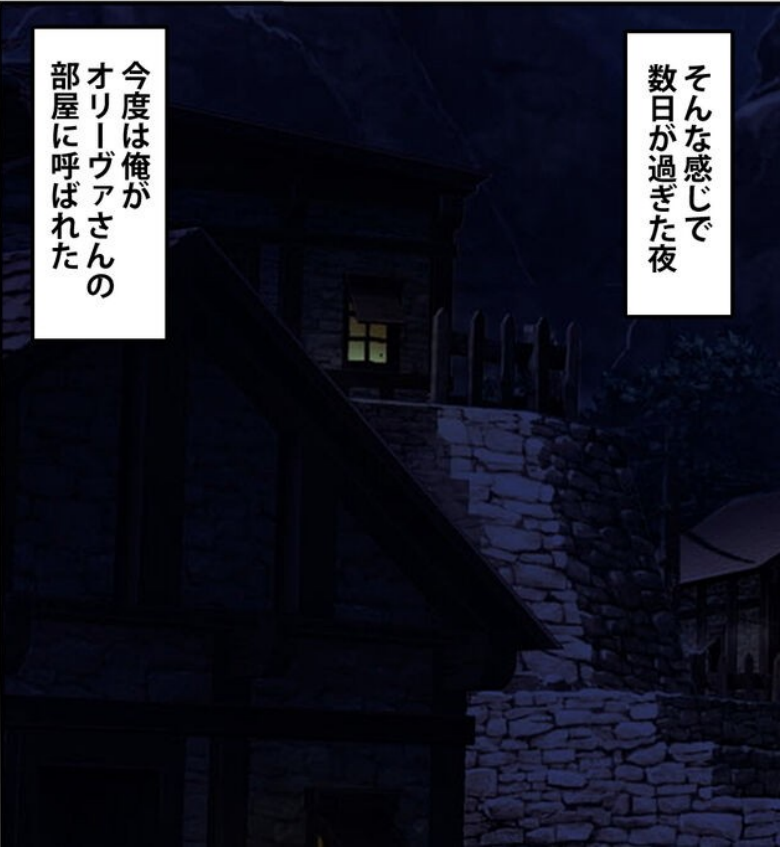
おいそこッ!!!
ダラダラ訓練してるんじゃない!!!
本当の戦闘なら一瞬の気の緩みが命取りになるんだぞ!!!

とはいえ訓練はしっかり厳しく行っているみたいですよ



こんばんは
トッドです

おお…
鍵は開いている
入ってくれ



そんな感じで
数日が過ぎた夜

今度は俺が
オリヴァさんの
部屋に呼ばれた

え!?!
オリーヴアさん!?!
その格好は…

い…いや…先日訓練後に
ここに駐屯している女兵士達の
会話が聞こえてきてな…
それでその…色々聞いてみたのだ…

うちの彼氏がさ〜

あんだのともも?

モロモロ

何の話だ?
男関係か?

あ!
オリーヴア教官
いえ…下世話な話
でして…あはは…

いやいや人間族の男女間の
事情も多少興味があるし
皆と世間話等で
コミュニケーションを
取るのも大事と思っ
なければ私も交せてくれ

はー!!

モロモロ

そうですか?
えっとですね…
私の彼氏がHの時いつも
私にエロい格好をして
欲しいって言ってきて
ですね〜

興味津々

ふんふん!

それで…男はこういう格好を
すると喜ぶと聞いてな…

ど…どどどどどどどどだ？
私は普段より魅力的に
見えるだろうか？

オリヴァアさんが女子トーク…
そして変な知識を
つけさせられてる…
でも…

もじもじしてる
オリヴァアさん…
めちゃくちゃ可愛くて
色っぽい…

へ…変かな？

あッ…
い…いえ…!!!



びっくりしちゃったけど
凄く色っぽくて俺
ドキドキしちゃって…
その…めちゃくちゃ
良いですよッ!!

そッ…
そうか？

じゃあまた…
私の事を抱き
たくなっただか？

あ…それは何と言っか
こんな事言うのは
失礼かんですが…
いつもというか…

!!
じゃッ…じゃあ前にも
言ってくれたあの…
あのあのあのあの…
あの言葉…言っ
てくれないか？





オリヴァアさん凄く
すっごく可愛いです!!



オリヴァアさんは
とても素敵な女性です!!



この格好を見せて
幻滅されたりしないかと...

戦に出た時よりも
緊張したぞ... ♡

そんな事...
オリヴァアさんは
とっても魅力的です

♡



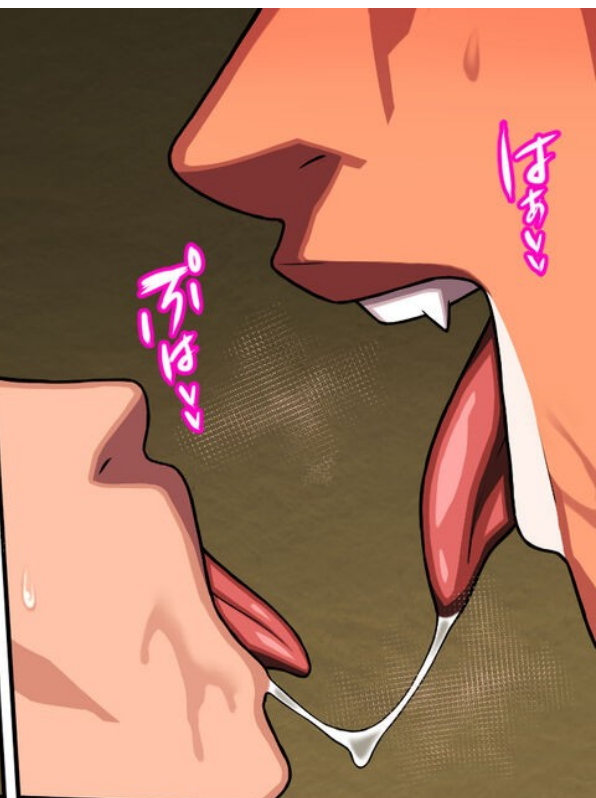
私もツッ:
お前の事が
好きだッ!!

わわッ...



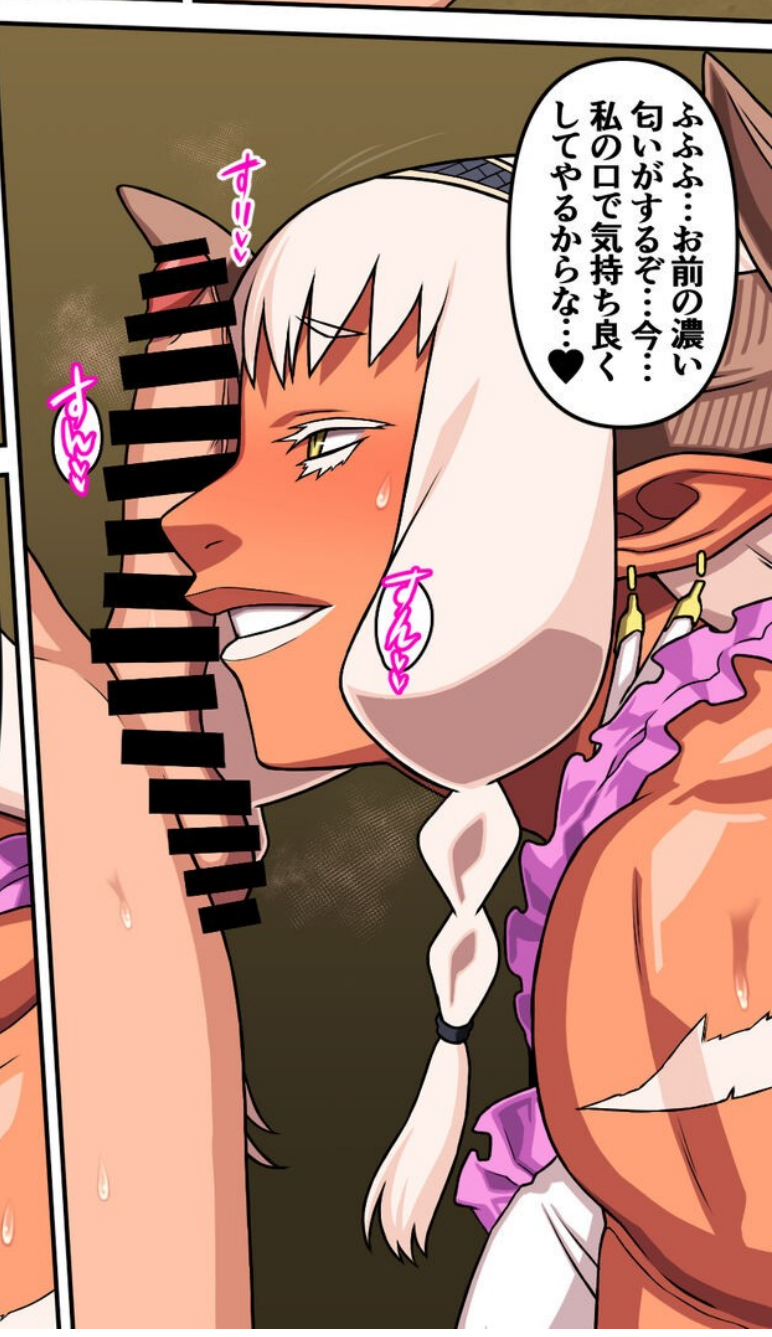
この前は夢中になって私ばかりが気持ち良さを求めてしまったからな...今日は私が気持ち良くしてやろう...

え!?



ちょ...ちよっと待って下さいオリーヴァさんッ

今日は俺まだ体拭いてなくて汚いですからッ...



ふふふ...お前の濃い匂いがするぞ...今...私の口で気持ち良くしてやるからな...♡



んん~~~~♡♡

んあぁあッ!!

オリヴァさんが俺のチ○ポ啜ってるッ…
あのオリヴァさんの口が…
俺のチ○ポッ…

凄く不敬な気持ちなのに
めちやくちや興奮しちゃって
チ○ポギンギンに反り返る位
立っっちゃってるッ…

大きな舌がチ○ポ全体を
こすり上げて気持ち
良すぎるッ…

こんなのすぐに
出ちやうよッ!!

ダメッ…離して
オリヴァさんッ

俺…もう
出ちやいますッ…

出して良いぞッ♡♡
私が全部口で
受け止めてやるッ♡♡

あッ…
だめッ…出るッ…
出るッ…!!

んひいッ…!!!

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん
びゅん

びゅん
びゅん



んん~~~~♡♡



ふふッ…どうだ？
お前の子種の味…たっぷり
味わわせてもらうぞ♡♡

ああ…
オリーヴァさん…



んん…♡♡

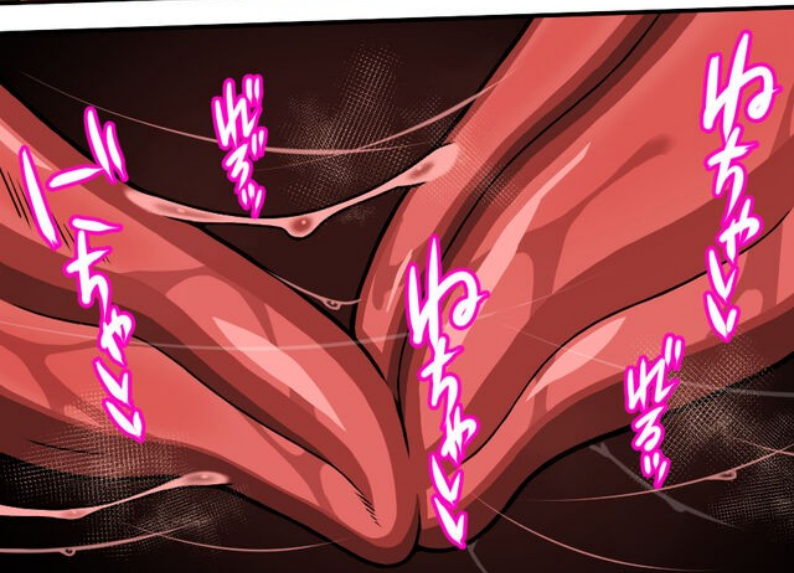
んむッ…

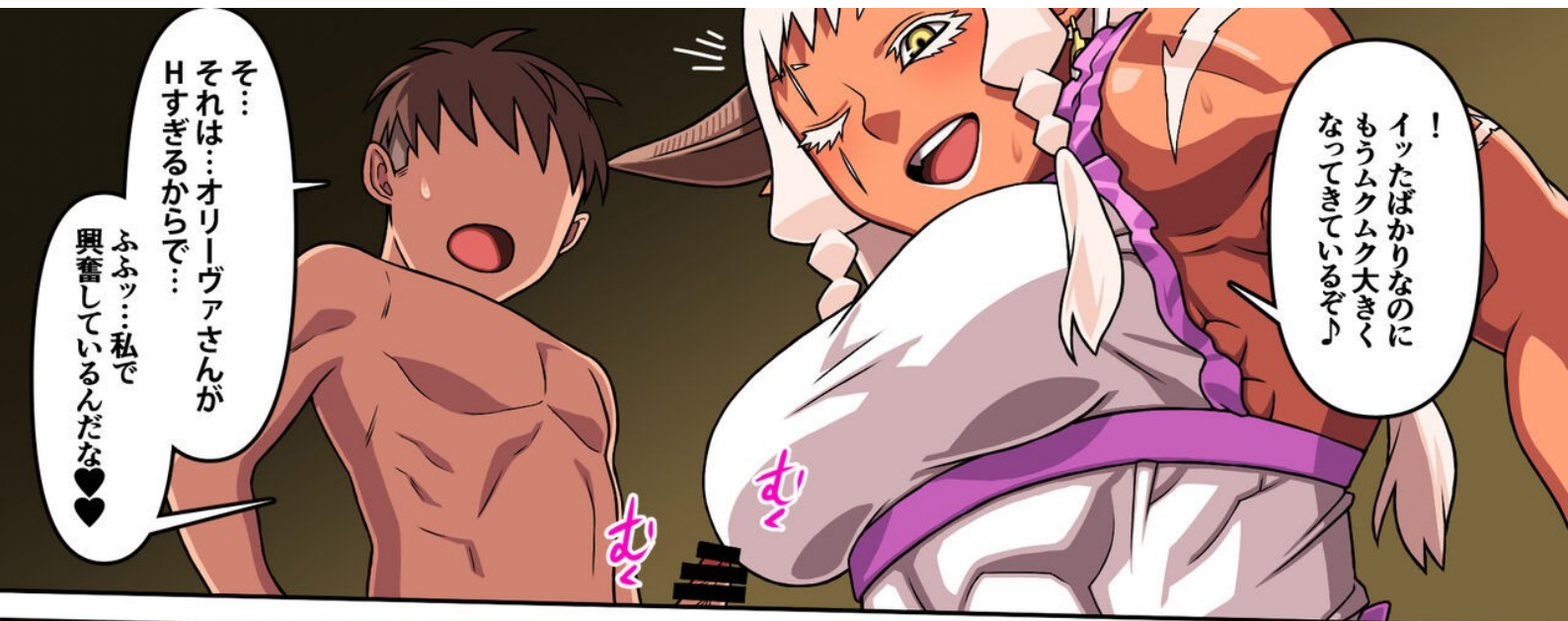


これがお前の種の匂い…味♡♡
とても濃くて…ソクソクソク♡♡
私の中の女がどんどん目覚めていく
のを感じる…凄く興奮する♡♡

お前の事がどんどん
欲しくなっていく…♡♡

オリーヴァさん…

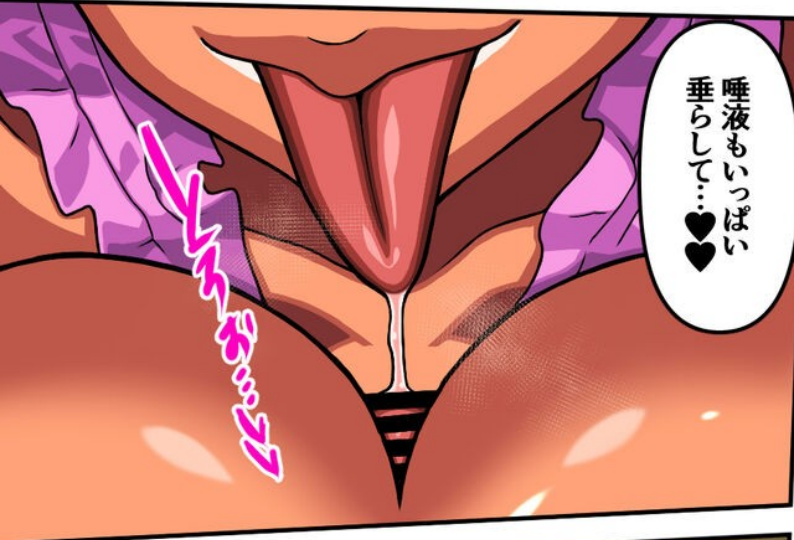




！
イッたばかりなのに
もうムクムク大きく
なってきたぞ！

そ…
それは…オリヴァさんが
Hすぎるからで…

ふふッ…私で
興奮しているんだな♥♥



唾液もいっぱい
垂らして…♥♥



嬉しい♥♥
もっと気持ち良く
してあげるな♥♥

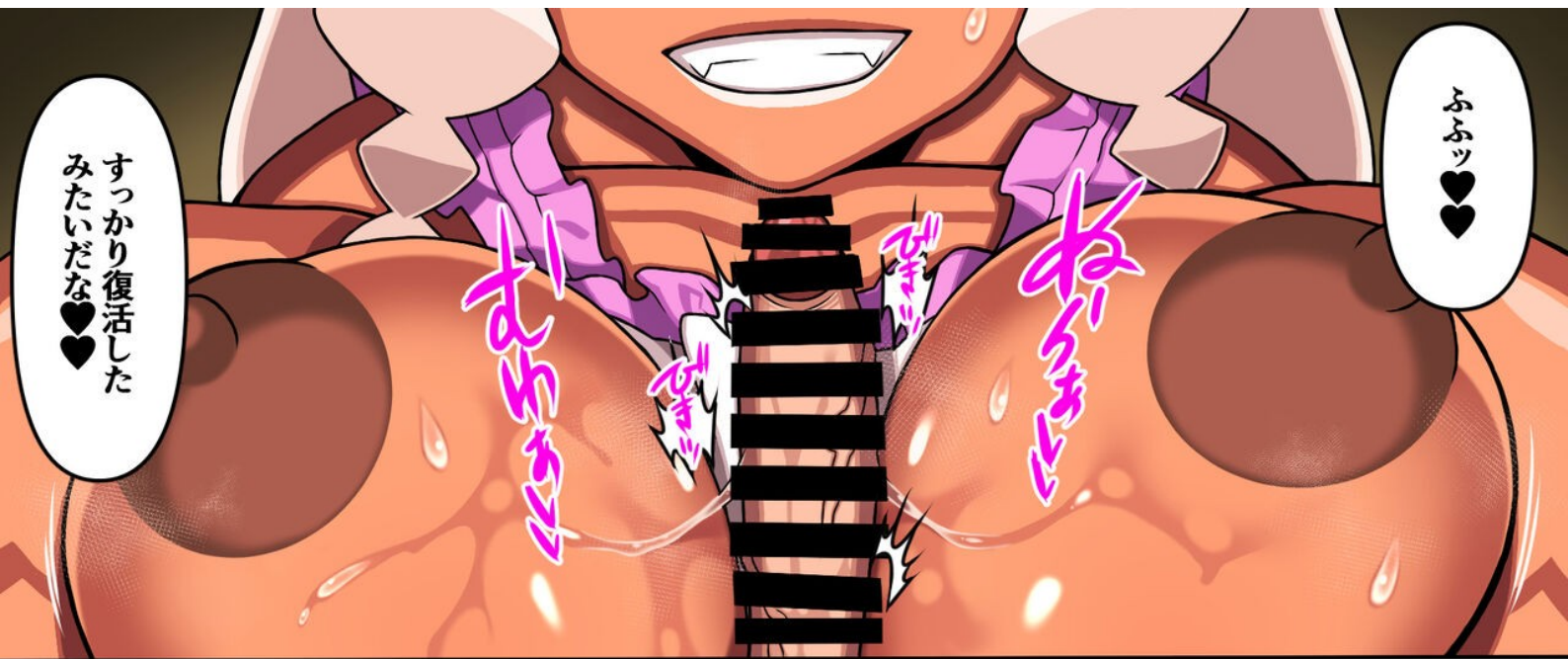
パイズリッ…ぱつぱつの
胸があったかくて…

凄く気持ち
良いですッ



ふふッ♥♥私の唾液と
チ○ポ汁で凄くいやらしい
匂いだぞ♥♥

オリヴァさんッ…
それッ…エロすぎですッ！！



ふふッ♡♡

すっかり復活した
みたいだな♡♡



来て♡♡

トッド…♡♡



オッ…
オリヴァさんッ!!

あんッ♡♡



トッド…今度は私の事を
そのチ○ポで気持ち良く
してくれないか…♡♡

その…人間族の女性を扱う様に
大事に愛おしく…今日も
私の事を女性として…
たくさん甘やかして欲しい…♡♡

オリヴァさん…



オリヴァさんの中
凄く熱くてヌルヌルして
めちゃくちゃ気持ち良いです!

それにほっぺ：耳まで
真っ赤にしてるオリヴァ
さんの顔：
凄く可愛いです!!



んっ♥♥もっと♥♥
もっと恋人にするみたい
にっばい甘えさせて♥♥

こんな頼みお前に
しか出来ない：
いや：お前に甘え
たいんだっ♥♥

こ：恋人みたいに：
恋人：っ：



オリヴァッ：
最高だよッ：
すっごく可愛いよッ!!

普段の力強さも良いけど
こういう姿もとっても
魅力的で最高に可愛いよ!!





んっ♥♥んんっ♥♥♥♥
呼び捨てにされるのっ
凄く距離が縮まった感じが
して…嬉しいっ♥♥♥♥

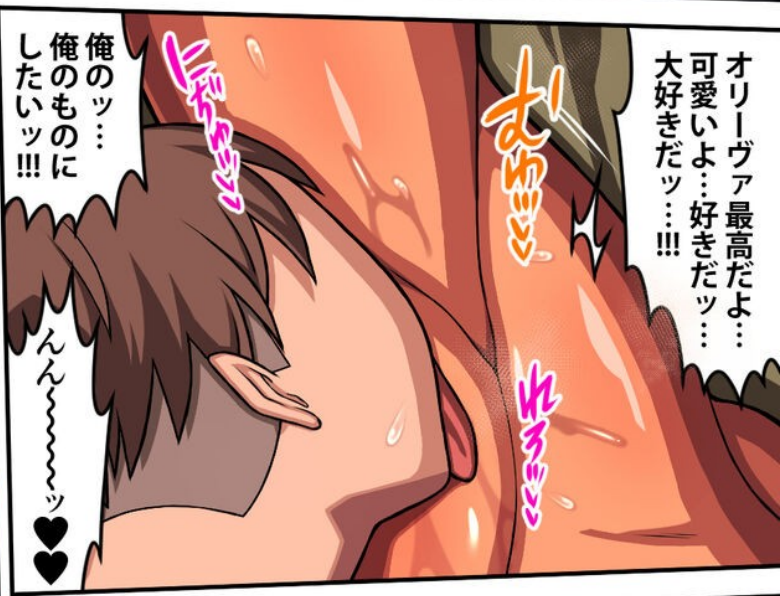
本当の恋人みたい♥♥♥♥
胸がキュンキュンするっ♥♥♥♥

もっと言って♥♥♥♥
頭などでして…♥♥♥♥
いっぱい甘えさせて♥♥♥♥
私の体で楽しんで♥♥♥♥
私の匂いと味覚えてっ♥♥♥♥



人間族の乙女心というものは
こういう感情なのかとオーガ族の
私がかさか思い知らされるなんて…

こんなに幸せを感じるなんて…
こいつの…こいつのものに…
私はこいつの女になりたいっ♥♥♥♥



オリヴァ最高だよ…
可愛いよ…好きだっ…
大好きだっ…!!!

俺のっ…
俺のものに
したいっ!!!
んんん~~~~っ♥♥♥♥

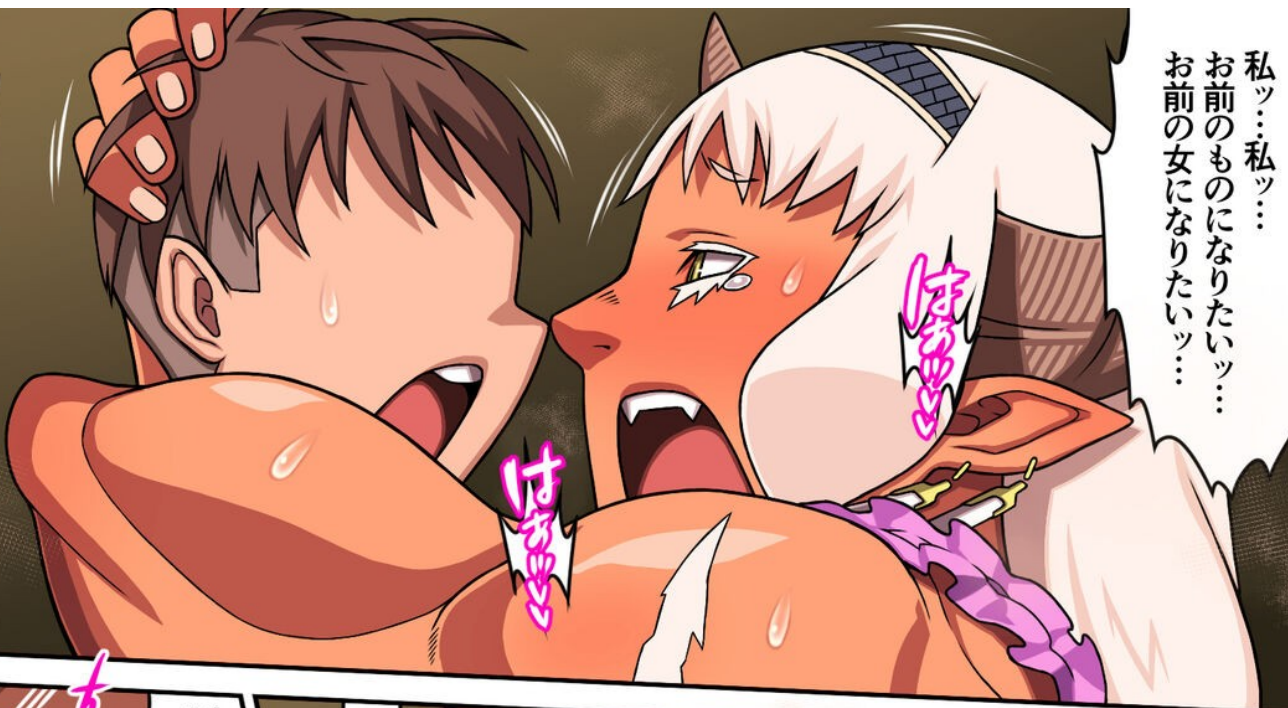


俺のものにしたい…オーガ族の男にも
似た様な事を言われた事があるが
ぜんぜん違う…オーガ族の男は本当に
物の様に女を扱うがこいつはそうじゃない…

大切に愛おしく…
抱きしめられ頭を撫でられ
ると本当にドキドキし
同時に凄く安心する

私ッ…私ッ…
お前のものになりたいッ…
お前の女になりたいッ…

お前の女に
なりたいッ♥♥



オリヴァッ…
めちやくちや
色っほい…

めちやくちやエロッ…!!

もう出でろッ…
イキそろッ…

私もイキそろッ
出して…私の中に全部出してッ…
お前の女だとマーキングしてえッ♥♥

イクッ…出るッ…
俺の彼女にッ…
女になってッ…
女にするッ…
オリヴァッ!!

あッ♥♥あッ♥♥
なるッ♥♥

彼女になるッ♥♥
お前の女になるッ♥♥
マーキングされてイクッ♥♥
イグラッッ♥♥



はあ…はあ…
ふふ…さっきの告白…
私は本気にするぞ♥♥

はい…俺も本気で
こんなにカッコ良く可愛
オリーヴァさんの事…
大切にしますッ!!

んふふッ♥♥
大切にしろよ♥♥
これからも沢山
お前に甘えるからな♥♥

は…はいッ!!

なあ…腕枕
してくれよ♥♥

はい

あと頭ポンポンも

はいはい

歴戦女戦士の

破スイチ





■オリーヴァ

オーガ族の女戦士。

厳しい男性社会のオーガ族の中あって最強の女性部隊を束ねた歴戦の猛者。

その強さは男性でも太刀打ち出来ずドラゴンを一人で倒した等の逸話もある。

「女の自分よりも弱いくせに男という理由だけで何故自分が下に扱われなければいけないのか」

と圧倒的男性有利な部族の風習に納得できず

女性としては高い地位を獲得しているにも関わらず部族から離れ人間族の駐屯地で指南役を務める事に。

人間族の風習の中で男女の格差も無く

穏やかな日々を過ごしていたオリーヴァだったが

普段自分の身の回りの世話を丁寧にしてくれて

悪からず思っているトッドにひよんな事で可愛いと言われる。

それまで戦いの中で生き部族の男性から軽視されて来た

彼女は生まれて初めてそんな事を言われて

ひどく動揺してしまうのだった。

ここは国境沿いの駐屯地
人間族とオーガ族の国の
境界に位置している

よし!!
今日の訓練は
これにて終了!!!

ありがとう
ございました!!

オリーヴァさん
今日も稽古
お疲れ様でした
これで汗を

おっ..
すまないな!

この人はオリーヴァさん
オーガ族の戦士だ

オーガ族には優秀な
女性だけの部隊があつて
その部隊にはどんな精鋭でも
歯が立たないと有名だった

その部隊を率いていたのが
このオリーヴァさんなのだ
なんとドラゴンを一人で
倒したなんて噂もある

俺はオリヴァさんの身の回りの世話役を任されているトッド

オリヴァさんに憧れて自分からこの役を買って出たんだ

俺は辺境にある山と森に囲まれた村の出身なんだけどその村では時々魔物が：時にはグリフィンなんかも現れて家畜に被害が出たりしていた

だから俺も自警団に入ってたんだけどちゃんとした戦いの技術を身に付けようと国の兵役に志願した

でも俺には戦いの才能が全然無いみたいでこの駐屯地に派遣されても結局やらされたのは雑用ばかり

早くこっちにも荷物運べよ

はい！

そんな時戦術指南としてやってきたのがオリヴァさんだった

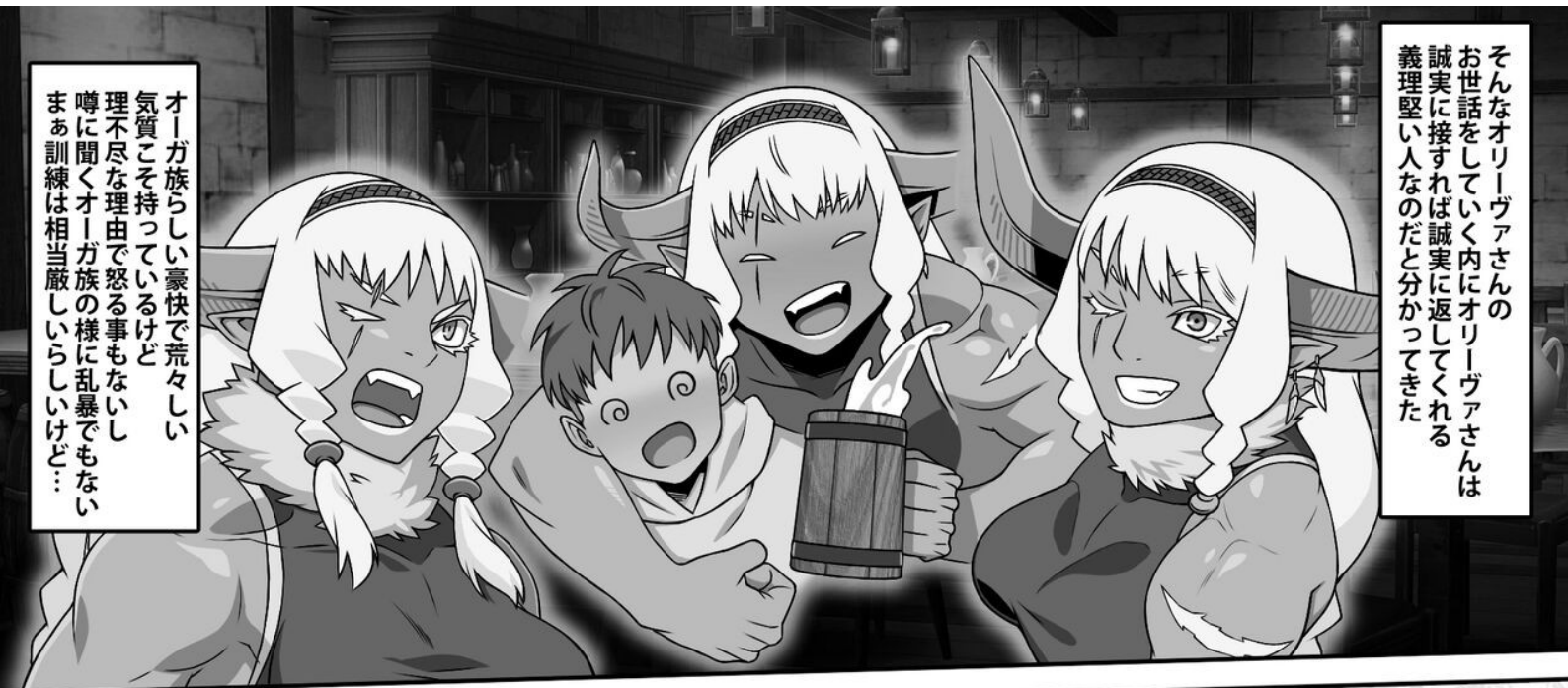
名の知られた戦士がやってきたという事で皆が湧き立つ一方オーガ族は好戦的で気性が荒いと有名だから怖がる人もいた

でも俺はオリヴァさんの力強く高い霧囲気に一気に引き寄せられたんだ



そんなオリヴァさんのお世話をしていく内にオリヴァさんは誠実に接すれば誠実に返してくれる。義理堅い人なのだとか分かってきた

オーガ族らしい豪快で荒々しい気質こそ持っているけど、理不尽な理由で怒る事もないし、噂に聞くオーガ族の様に乱暴でもない。まあ訓練は相当厳しいらしいけど……



そしてたまに目にする。普段の力強さとは違った女性的な魅力にも俺はドキドキしこの人をとてても尊敬していた

暑い……



前から気になってたんですけどオリヴァさんはどうしてここに指南役に来ようと思ったんですか？

ん？



いえ……俺だってお会いする前からオリヴァさんの名前を耳にする事があったんですけど

そんなに有名なオリヴァさんなら本国ならもっと何て言うか……高い地位と言った方が良い暮らしが出来るはずじゃないかって思ってた

ああ……そういう事か



まあお前の言う事も分からなくはない…
何というか私もオーガ族の事は
誇りに思っているが風習で肌に
合わない部分もあってな

ちよつとその環境の外に
出てみたくなったという
感じかな？

へえ…

お前はどんなんだ？

え？

どういう経緯で
ここへ来たんだ？

……とまあ
カクカクシカジカで
兵役に参加したものの
戦いに向いてないらしくて

はははッ
だから雑用係に
されたと

えく…ツとですね…俺結構僻地の方の
山と森だらけの田舎村の出身なんですけど
たまにそこってグリフィンが出たりして

それで俺も自警団に
入ったりしてたんですよ
それで――

でもお前の仕事は丁寧で
痒いところにも手が届く
私はとても助かっているよ

本当ですか!!
俺嬉しいです!!

それにしてもオーガ族の
私の世話を希望するなんて
お前も変わった奴だよな
いくら女だといつても
人間族より体臭も濃いし
色気などもないだろうに

熊みたいな
ものだろ

いや!そんな事
ないですよ!!
俺オリーヴァさんを
尊敬してますし

それにふとした時に
とても綺麗でその...
可愛いですし...!!

あつ...すいませんつい
生意気な事を言ってしまったて...
こんな言い方失礼でしたよね...

本当すいませんでした!!
部屋掃除してきますッ!!

...

!?
何?可愛い?
私が可愛いだと?

キキキ



「可愛い」だと…？私が…？
そんな事生まれて初めて言われたな…
厳しい男性社会の我が部族…
男を立てるのが女の務めであり栄光…

今まで「お前は俺に相応しいや
俺の隣に置いてやる」なんかは
言われた事があったが
まるで装飾品になれと
言わんばかりだった…



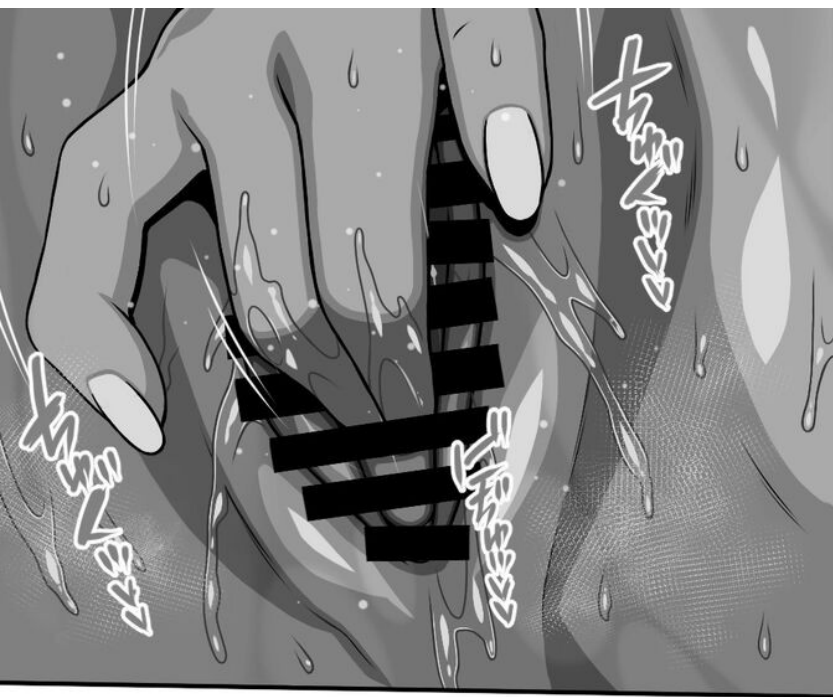
何だ…この胸の奥が
ギューッと握りつぶされそうな
感覚…動悸も激しくなって
息も少し苦しい…しかし…
嫌ではない…

これは…喜び？
私は今可愛いと言われて
喜びを感じているのか？



ただ女の私よりも弱い男に
そんな事を言われるのが納得いかず
相手にもしてこなかったが…

そんな私が可愛い…
可愛い…か…



ふうッ…ふうッ…
この高揚感ッ…戦いの時に
感じるものとも全然違うッ!!



むちゅ…むちゅ…

あいつの言葉を何度も何度も
思い出して…
その度に気持ちが高ぶって…

自慰など普段は
しないのに…



教官!!

お...おお...
何だ?



教官...



どうされました?
今日は何だかほんやり
されてる事が多いように
見えますが
寝不足ですか?

ああ...すまんな...
昨夜は考え事をしていて
あまり眠れなくてな

いかにいかに
私とした事が...
しかし...



それに...あいつが女と話してるのを
見ると何故こんなにイライラするんだ...

今までは当たり前に見ていた
光景じゃないか...クソッ...

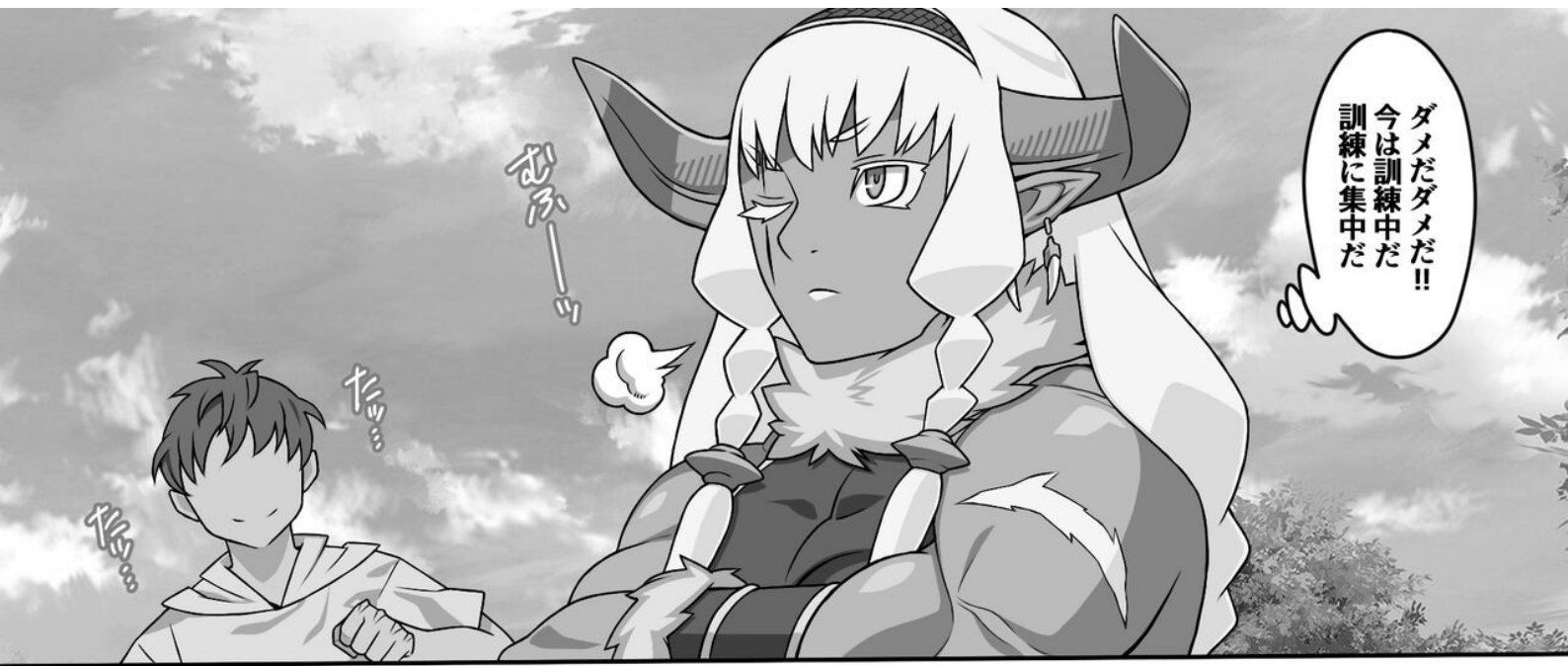


!!



言葉一つでこんなにも
惑わされてしまうなんて

気づけばあいつを探し
目で追ってしまっている
自分がいる

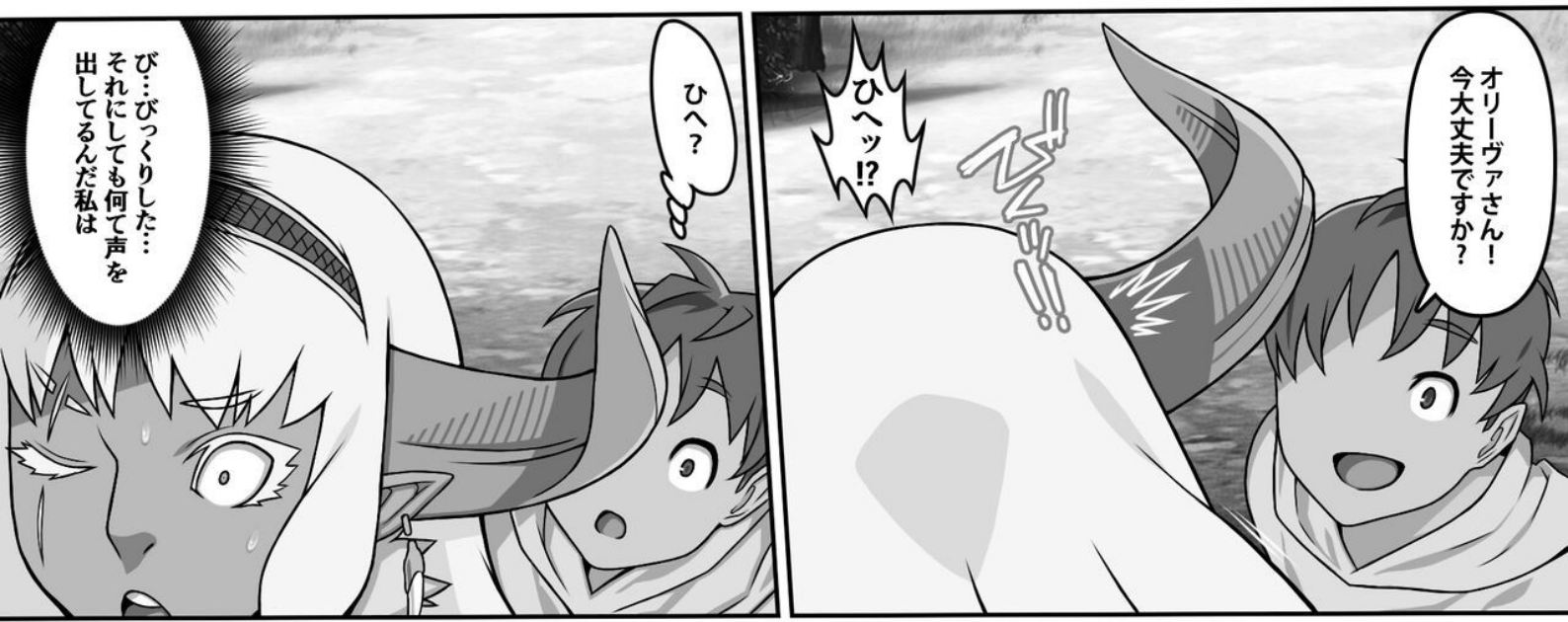


ダメだダメだ!!
今は訓練中だ
訓練に集中だ

ひふーっ

たっ...

たっ...



オリーヴァさん!
今大丈夫ですか?

ひへっ!!
ひへっ!!

ひへっ

びびっくりました...
それにしても何て声を
出してるんだ私は



どうした?

今晚のご飯何が
良いかと思いついて
何かリクエスト
ありますか?

そうだ!大きくて
良いイノシンが
捕れたそうですよ



じゃあその旨
伝えておきますね



あ…
は…はい
そうですね

じゃあそのイノシシ肉に
決まっているだろ!!
いちいち聞かなくても
そのぐらい分かるだろ!!



オリヴァさん
訓練中だから気が
高ぶってるのかな

キ...



あ…

…
…
…



このままでは…

いかん!!



怒ってしまった…

あいつはいつも
悪くないのに…

ずーん…

その日の深夜――



はい？
どなたですか？

コソ
コソ

私だ…
ちよつと良いか？



え？オリヴァアさん？
どうしたんですか
こんな夜中に？
今開けますね



え…オリヴァアさん
どうしたんですかその格好…

え…今鍵閉め…
オリヴァアさん？



シキッ
シキッ



わッ…!?

すまんツ!!
トツド!!



す…



お…俺がオリーヴァさんに
言った事…ですか?

お前に言われた事が
昨日からずっと頭に残って
眠れないんだ…

私の事綺麗で可愛いって言ったよな
私が可愛いって言う事は
お前は私に対して女性として
魅力を感じてるって事で良いんだよな?



えッ!? えッ!?
オリーヴァさん?

しッ…静かに
してくれッ

突然すまない…
だが私にはこんなやり方
しか思いつかなくて…



嬉しいッ♥♥

わわッ



んむッ!?

んッ...



このまま...
抱いてくれ♥♥
私の事♥♥

オリヴァさん...
ほ...本当に俺なんかで
良いんですか?



お前が...♥

お前が良いんだ♥♥



キスッ

キスッ

オーガ族のセックスは野性的でめちやくちや激しかった

オリヴァアさんは激しく食べるように俺にキスをし太い舌をねじ込んできた…



野性的に全身をくまなく舐め回され…

これがお前の味…

匂い…♡

凄く密度の高い肉圧…オリヴァアさんの体臭…そして汗が俺を包みこんでいた…

まわああああ

乳首ッ

はひッ



最高ですッ!!

んんッ…ダメッ…
そこ…オーガ族は体臭が
強くてその…臭いからッ

そんな事無いですッ!!
俺オーヴァさんの
匂い大好きですッ!!
凄く良い匂いですッ!!



私…魅力的か?
綺麗か?可愛いか?
はしたくないか?

オーヴァさんッ
凄く魅力的ですッ
力強くて荒々しい所もあるのに
こんなに綺麗で可愛くて…



胸も吸ってくれッ♥♥♥
乳首噛んでッ♥♥♥

んん♥♥♥
噛んでッ♥♥♥

もっと強くッ♥♥♥



好き?
私の匂い好き?

なら…
もっと嗅いで♥♥♥
もっと舐めてえッ♥♥♥

私ッ：
良い匂い？
私の匂い好き？

本当に臭くない？

好き？

めちやくちや
良い匂いですッ!!
濃厚な甘ったるさに
汗の匂いが混じって

凄くチ○ポがムズムズ
しちゃうような
魅力的な匂いですッ
俺大好きですッ!!

んんんんんん♡



感じるッ♥♥

あッ♥♥♥♥
んッ♥♥♥♥
良いッ♥♥♥♥

お前のチ○ポッ♥♥

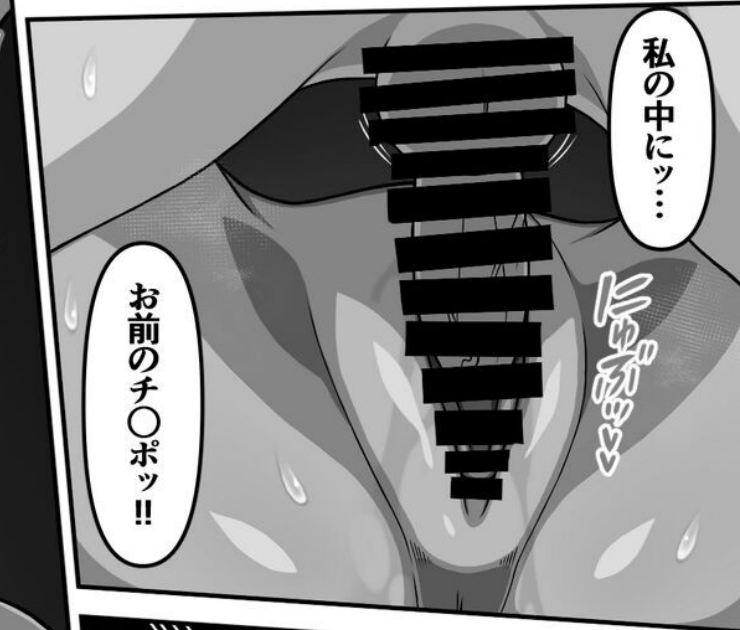
オリヴァさんッ

オリヴァさんッ



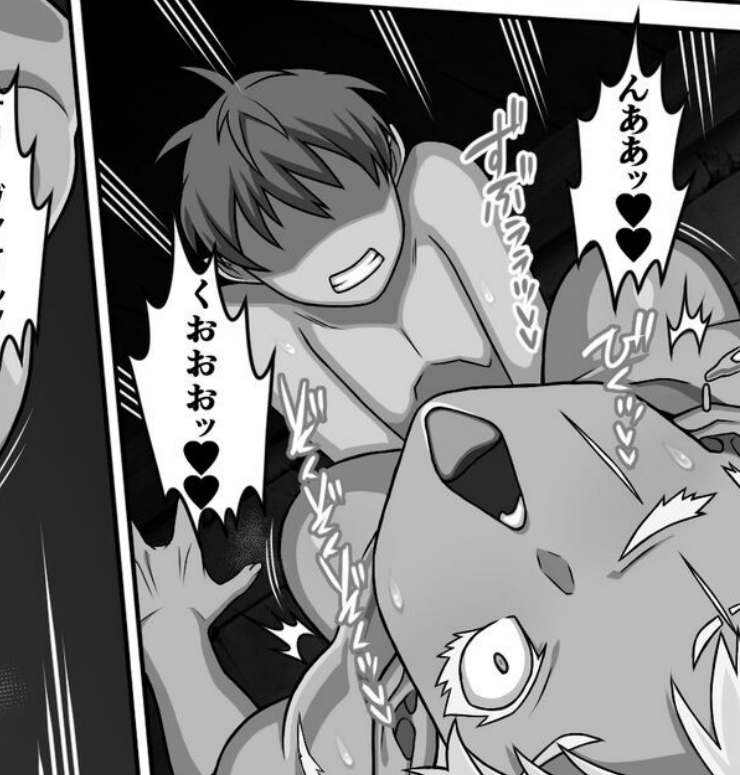
私...高ぶってしまって
もう我慢が出来ない...
トッド...中に入れてくれッ

オリヴァさんッ



私の中にッ...

お前のチ○ポッ!!



んああッ♥♥♥♥

くおおおッ♥♥♥♥

オリヴァさんッ

オリヴァさんの中…
ギユウギユウにキツくて…



あつたかくてヌルヌルで
凄く気持ち良いッ…

お前のチ○ポも凄く良いぞッ
もっ…私で感じてくれッ
私を…女として求めてくれッ

人間族の男が女にする様に
私に…もつと優しくッ…その…
甘えさせてくれッ



オツ…オリヴァさんッ!!



ぐッ
♡♡

ぐんぐん…ツツ♡♡



抱きしめられるの…
頭なでられるの気持ち良い…
凄く安心する…何故だ
こいつの方が体が小さいのに…

そうか…今私は好意を持った
男に女として優しく大切に
してもらっている事に
喜んでるんだ…

これ…
たまらないッ
♡♡

もっとギュッとして♡
頭なでて♡♡

こんなに逞しくて強くて…
それなのに乙女なオリヴァさん
最高に可愛いですッ!!
可愛すぎますッ!!

はあッ…はあッ…
んんッ…♡私ッ…♡
もうイッてしまいたいッ♡♡

んッ…あうッ…俺も
もうイキそうですッ
出ちやいますッ

!?
オッ…
オリヴァさん!?

待って…ダメッ…
本当に俺もう出ちやいますッ
出ちやいますからッ…

出して♡♡
中に出して欲しいッ…♡
お前の子種…私の中に♡
中に出して♡♡

私に…お前の
精液を出して
くれッ♥♥

んんんッ…
オリーヴァさんッ…
あうッ…出ちゃうッ…

オリーヴァさんの体温…
匂い…湿度…濃密な肉感に
包まれながら俺はオリーヴァ
さんの中にとめどなく射精した…

事が終わっても
オリーヴァさんは
俺を抱きしめ続けた…
そしてそのまま…
オリーヴァさんは大きな
猫みたいになっていた…





オリヴァアさん
夕飯のリクエストとか
あります？

ん？そうだな
ちなみにお前は
何が食べたい？

そうですね…
最近肉が多かった
ので魚も良いですね
じゃあ私も♪
今晚は魚にしよう♪



昨夜あんな事があって
俺はオリヴァアさんと
顔を合わせるのがちょっと
恥ずかしかったけれど

オリヴァアさんは
とても機嫌が良かった



おいそこッ!!!
ダラダラ訓練してるんじゃない!!!
本当の戦闘なら
一瞬の気の緩みが命取りに
なるんだぞ!!!

とはいえ訓練はしっかり
厳しく行っているみたいですよ



こんばんは
トッドです

おお…
鍵は開いている
入ってくれ



そんな感じで
数日が過ぎた夜

今度は俺が
オリヴァアさんの
部屋に呼ばれた

え!?!
オリヴァアさん!?!
その格好は…

い…いや…先日訓練後に
ここに駐屯している女兵士達の
会話が聞こえてきてな…
それでその…色々聞いてみたのだ…

うちの彼氏がさ〜

あんだのともも?

何の話だ?
男関係か?

あ!
オリヴァア教官
いえ…下世話な話
でして…あはは…

いやいや人間族の男女間の
事情も多少興味があるし
皆と世間話等で
コミュニケーションを
取るのも大事と思っ
なければ私も交せてくれ

そうですね?
えっとですね…
私の彼氏がHの時いつも
私にエロい格好をして
欲しいって言ってきて
ですね〜

興味津々

ふんふん!

ももも

ももも







この前は夢中になって私ばかりが気持ち良さを求めてしまったからな…今日は私が気持ち良くしてやろう…

え!?



ちょ…ちょっと待って下さいオリーヴァさんッ

今日は俺まだ体拭いてなくて汚いですからッ…



ふふふ…お前の濃い匂いがするぞ…今…私の口で気持ち良くしてやるからな…♡



んん♡♡

んあぁあッ!!

オリヴァさんが俺のチ○ポ啜ってるッ…あのオリヴァさんの口が…俺のチ○ポッ…

凄く不敬な気持ちなのにめちやくちや興奮しちゃってチ○ポギンギンに反り返る位立っっちゃってるッ…

大きな舌がチ○ポ全体をこすり上げて気持ち良すぎるッ…

こんなのすぐに出ちやうよッ!!

ダメッ…離してオリヴァさんッ

出して良いぞッ♥♥私に全部口で受け止めてやるッ♥♥

俺…もう出ちやいますッ…

あッ…だめッ…出るッ…出るッ…!!

んひいッ…!!!

びゅるるるッ

びゅるるるッ

びゅるるるッ



んんん



ああ…
オリヴァさん…

ふふッ…どうだ？
お前の子種の味…たっぷり
味わせてもらうぞ



んんん

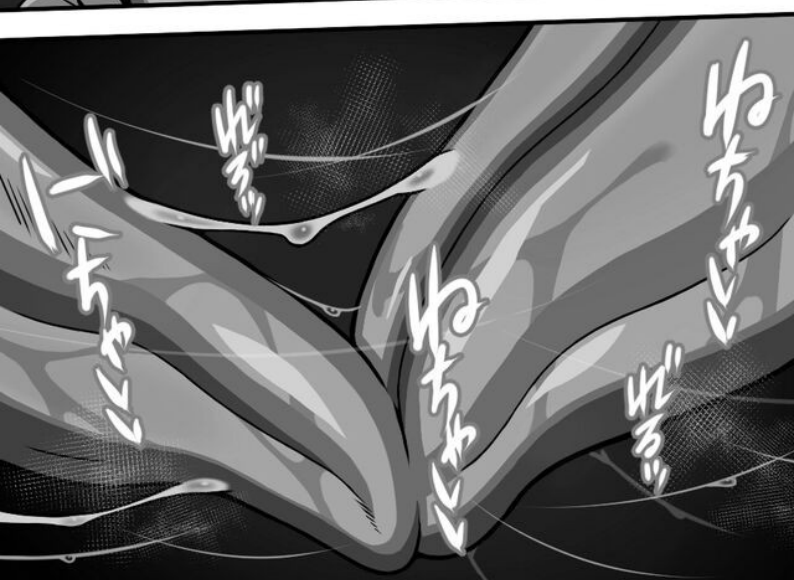
んむッ…



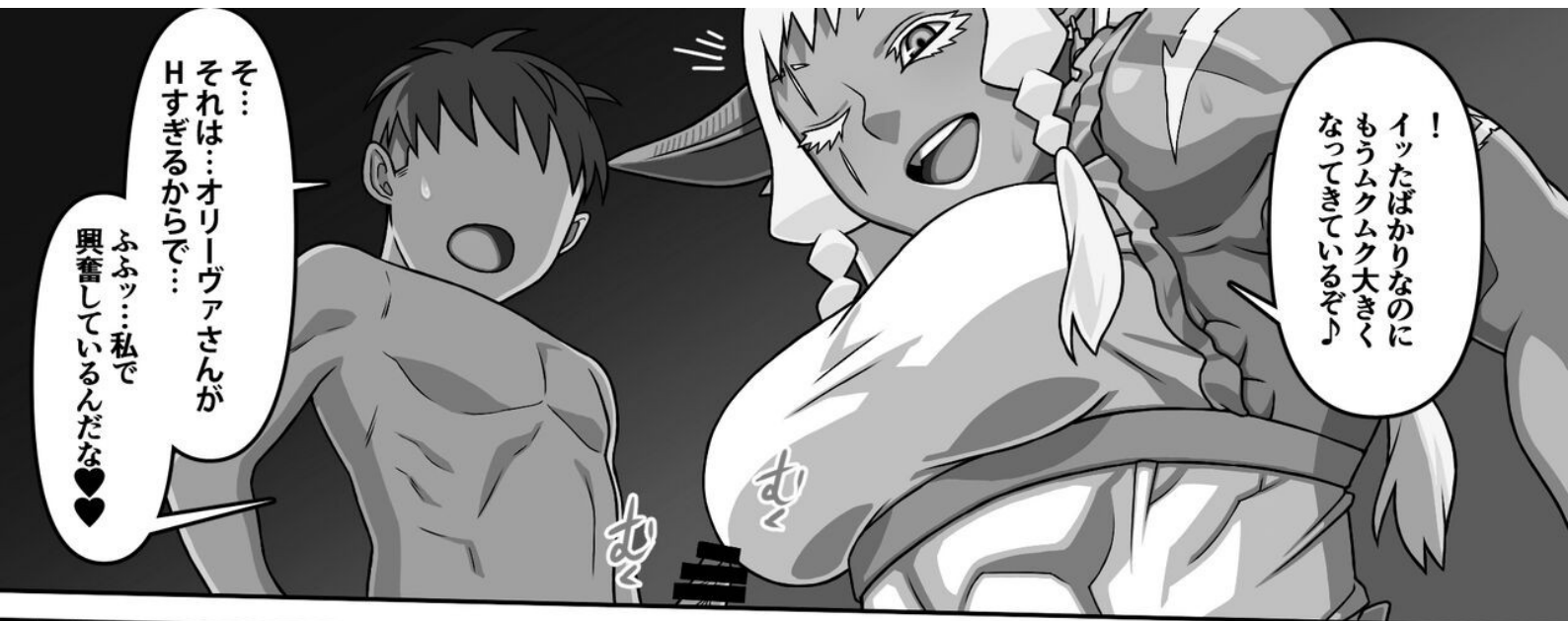
お前の事がどんどん
欲しくなっていく…

これがお前の種の匂い…味
とても濃くって…ソクソクソクッ
私の中の女がどんどん目覚めていく
のを感じる…凄く興奮する

オリヴァさん…



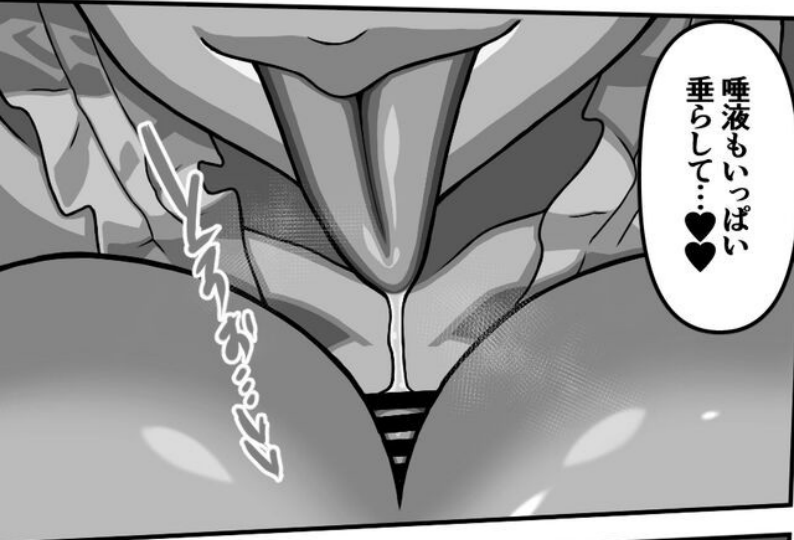
んんん



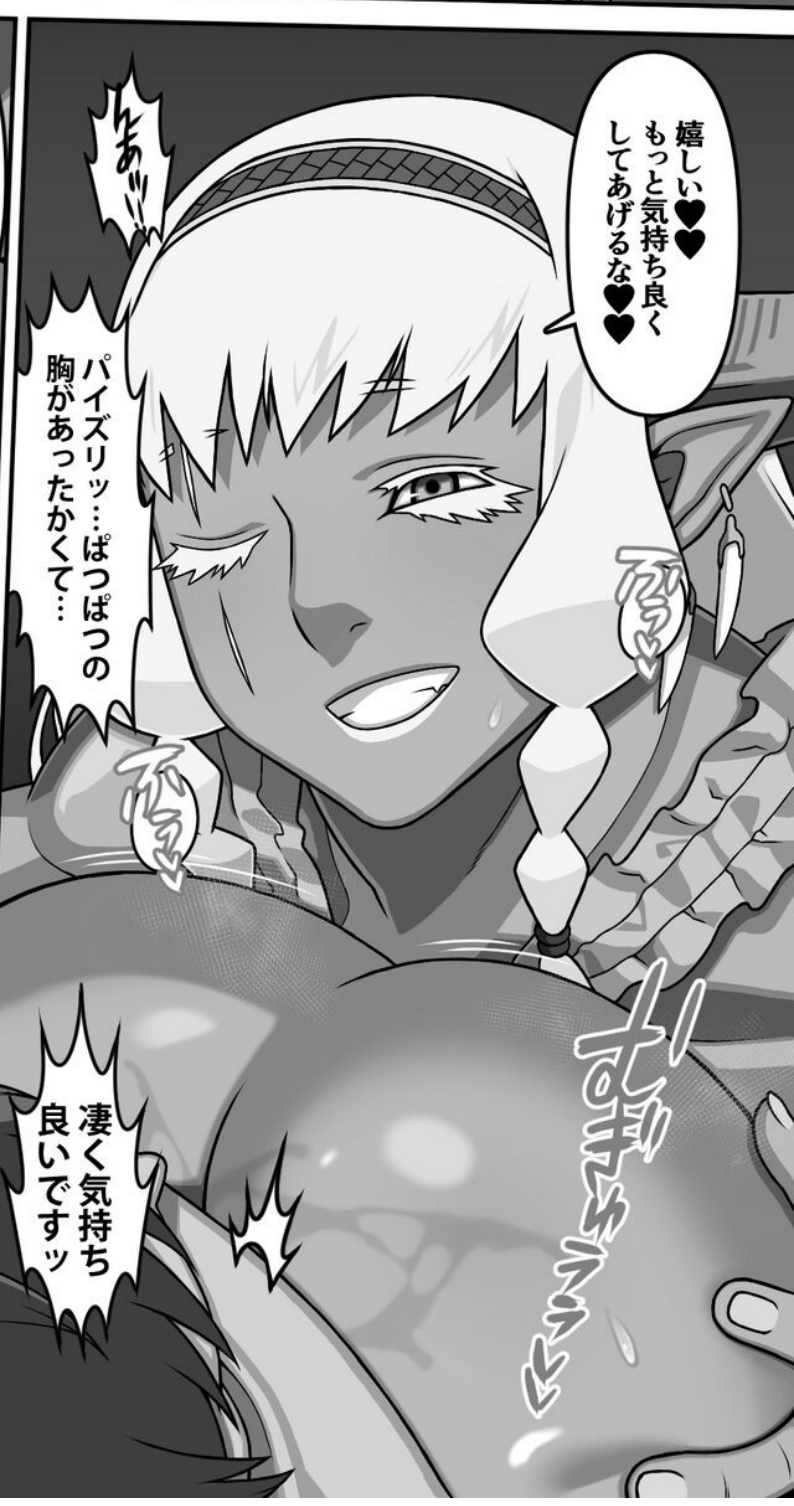
！
イッたばかりなのに
もうムクムク大きく
なってきたぞ！

そ…
それは…オリヴァさんが
Hすぎるからで…

ふふッ…私で
興奮しているんだな♥♥



唾液もいっぱい
垂らして…♥♥



嬉しい♥♥
もっと気持ち良く
してあげるな♥♥

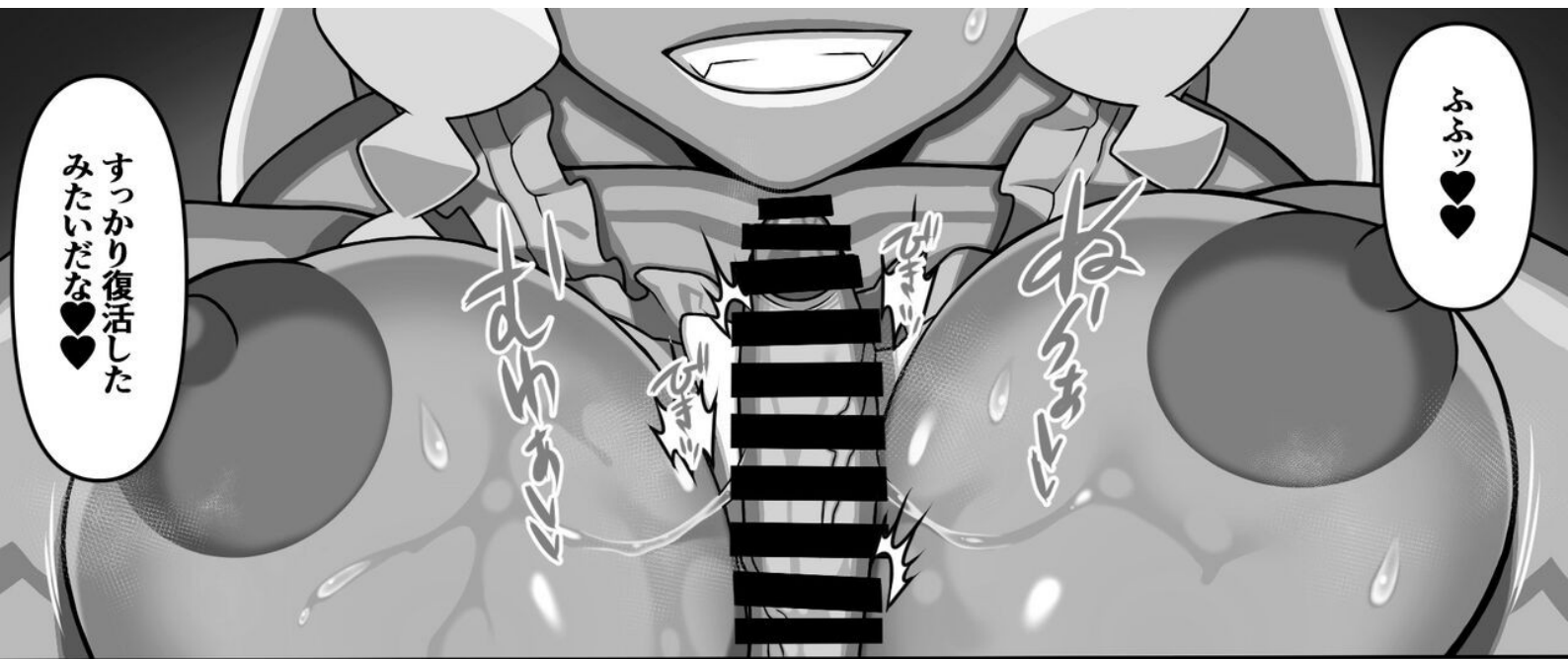
パイズリッ…ぱつぱつの
胸があったかくて…

凄く気持ち
良いですッ



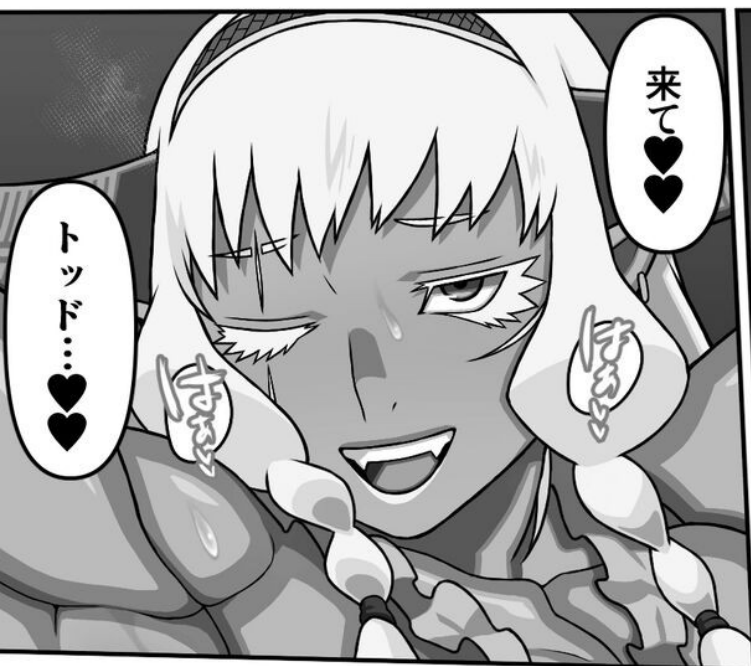
ふふッ♥♥私の唾液と
チ○ポ汁で凄くいやらしい
匂いだぞ♥♥

オリヴァさんッ…
それッ…エロすぎですッ！！



ふふッ♡♡

すっかり復活した
みたいだな♡♡



来て♡♡

トッド…♡♡



オッ…
オリーヴァさんッ!!

あんッ♡♡



トッド…今度は私の事を
そのチ○ポで気持ち良く
してくれないか…♡♡

その…人間族の女性を扱う様に
大事に愛おしく…今日も
私の事を女性として…
たくさん甘やかして欲しい…♡♡

オリーヴァさん…



オリヴァさんの中
凄く熱くてヌルヌルして
めちやくちや気持ち良いです!

それにほっぺ：耳まで
真っ赤にしてるオリヴァ
さんの顔：
凄く可愛いです!!



んっ♥♥もっと♥♥
もっと恋人にするみたいに
いっぱい甘えさせて♥♥

こんな頼みお前に
しか出来ない：
いや：お前に甘え
たいんだっ♥♥

こ：恋人みたいに：
恋人：っ：



オリヴァッ：
最高だよッ：
すっごく可愛いよッ!!

普段の力強さも良いけど
こういう姿もとっても
魅力的で最高に可愛いよ!!





んっ♥♥んんっ♥♥♥♥
呼び捨てにされるのっ
凄く距離が縮まった感じが
して…嬉しいっ♥♥♥♥

本当の恋人みたい♥♥♥♥
胸がキュンキュンするっ♥♥♥♥

もっと言って♥♥♥♥
頭などでして…♥♥♥♥
いっぱい甘えさせて♥♥♥♥
私の体で楽しんで♥♥♥♥
私の匂いと味覚えてっ♥♥♥♥



人間族の乙女心というものは
こういう感情なのかとオーガ族の
私がかさか思い知らされるなんて…

こんなに幸せを感じるなんて…
こいつの…こいつのものに…
私はこいつの女になりたいっ♥♥♥♥



オーヴァ最高だよ…
可愛いよ…好きだっ…
大好きだっ…!!!

俺のっ…
俺のものに
したいっ!!!
んんんんんんっ♥♥♥♥



俺のものにしたい…オーガ族の男にも
似た様な事を言われた事があるが
ぜんぜん違う…オーガ族の男は本当に
物の様に女を扱うがこいつはそうじゃない…

大切に愛おしく…
抱きしめられ頭を撫でられ
ると本当にドキドキし
同時に凄く安心する

私ッ…私ッ…
お前のものになりたいッ…
お前の女になりたいッ…

お前の女に
なりたいッ♥♥

オリヴァアッ…
めちやくちや
色っほい…

イクッ…出るッ…
俺の彼女にッ…
女になってッ…
女にするッ…
オリヴァアッ!!

めちやくちやヒロシ!!

もう出でろッ…
イクそらッ…

あッ♥♥あッ♥♥
なるッ♥♥

彼女になるッ♥♥
お前の女になるッ♥♥
マーキングされてイクッ♥♥
イグらッッ♥♥

私もイクそらッ
出して…私の中に全部出してッ…
お前の女だとマーキングしてえッ♥♥

はあ…はあ…
ふふ…さっきの告白…
私は本気になるぞ♡♡

はい…俺も本気で
こんなにカッコ良く可愛
オリーヴァさんの事…
大切にしますッ!!

んふふッ♡♡
大切にしろよ♡♡
これからも沢山
お前に甘えるからな♡♡

は…はいッ!!

なあ…腕枕
してくれよ♡♡

はい

あと頭ポンポンも

はいはい